839
20
57

江戸名所図会

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

河崎六郷渡口より向の方よあらを東海道官驛の一ツみしく
行程品川より二里半驛舎数百軒整くとして両側よ聯る
小田原北条家の所領役帳よ雉田新三郎及び伊勢兵庫頭間宮豊前守等
所領の中よ此河崎の地名あり又同書大珠寺分十九貫四百文の内五百文を
川崎よ代ることあり

平安記行

河崎ころの海をこく宿あるく使なとあるくハ長光寺日濯上人くくるの程
馬むれんと立るの中ふ砂崎ふかくこきのなりれハ
乳部雪うれるを河崎ふ泥とみるまでいとことなるあるくこの里を
かとものるいことの里を雪そうれハ程ふ泥ふまみ沖洋用

全

持資

曹山文庫

根岸信蔵氏寄贈

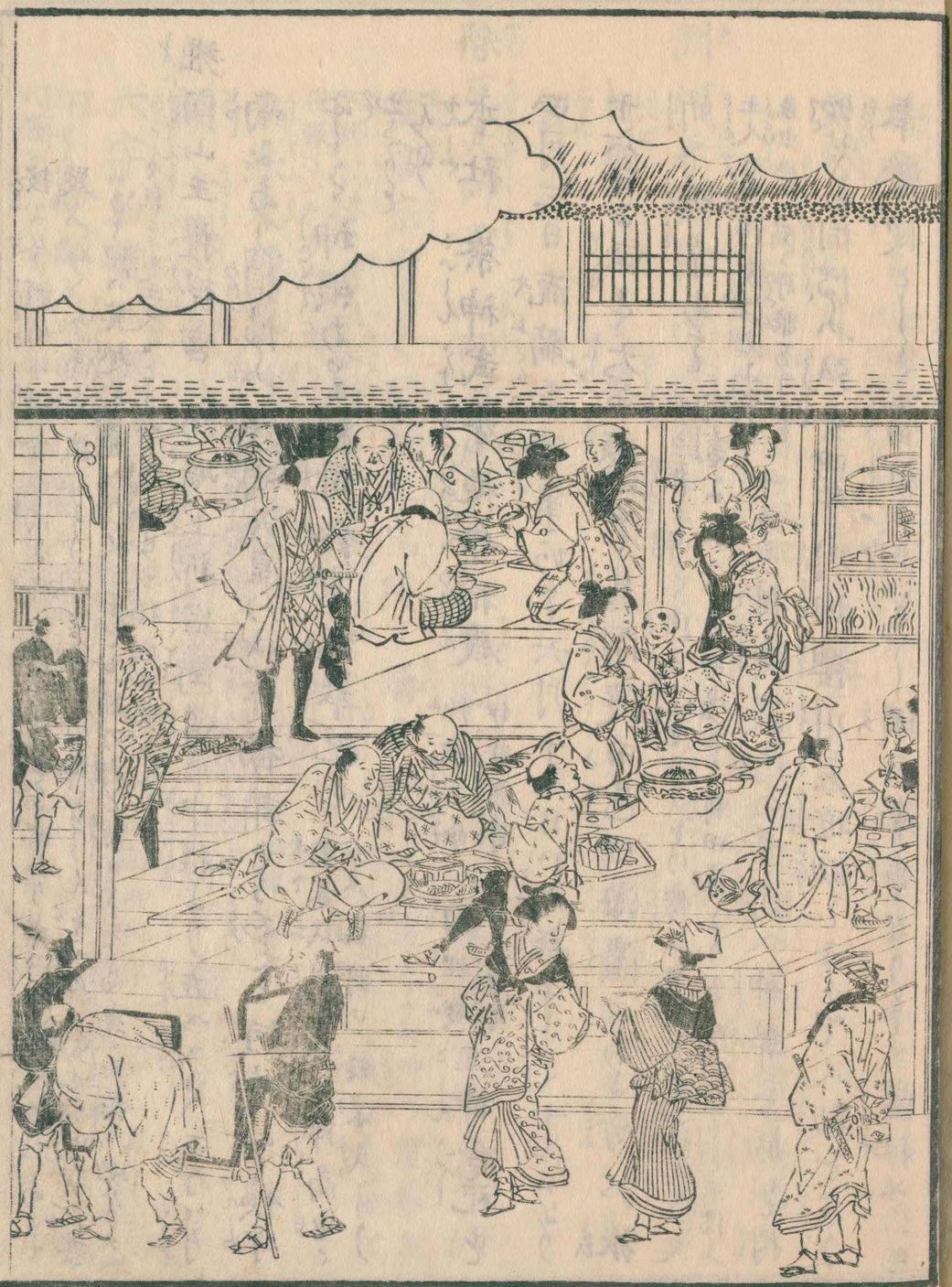
按よ長光寺ハ今廃寺となりや今も恐らくハ此驛中の小地名やらく今も久根崎町新宿砂子町小土呂町等の名あるを
河崎庄司次郎高重宅地　其舊地今志くハ相傳ふ高重普渋谷よ住を後違論のるあらく此地へ移を住となり又旧地堀内小
あらく山王の祠をも此河崎よ迁をとらへを

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

名力

河崎万年屋（かわさきまんねんや）
奈良茶飯（ならちゃめし）



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

按ずる今河崎の驛舍の南より堀の内と字する地あり。又山王權現の社あり。疑ふらくは高重渋谷よりこゝに遷せしものか。よるに紀八其趣を違ふ。又山王の社地の内と称するを詳ならず。他日考へべきのみ。

堀内山王權現宮　河崎上新宿街道の中程より左へ入ること二丁許南よりあり相傳ふ欽明天皇の御宇勸請せりと。河崎の鎮守

一本社　祭神武甕槌命　相殿　経津主命　菊理媛命　伊弉諾尊　伊弉册尊　五神合祀せり

二月三日流鏑馬神事ありて六月十五日は大祭ありて十三日より十六日に至りて大に賑ふ。其間渡田邑の海濱にある所の旅所へ神幸あり。

同書に長八丁の馬場あり新田家より寄附ありしと云傳ふ。

土人云此池より清き水湧出ると。

魚虫ともに土人も其趣を違ふことを詳ならず。他日考へべきのみ。

十五日神輿渡河の時前へ神幣七柄を持奉幣使として當社に向ふ頃の幣串なりとぞ。當社第一の神寶とす。奉幣使の人名尤不審少くも只傳説のみを記すものか。

又九月十九日ありて角力の伎を奉る。

一十一月廿三日より八年の市立ありて同所佐々木明神の社記に佐々木四郎高綱朝臣の命を蒙り河崎山王宮の社造營奉行せしことを載せたり。當社のことなるべし。

河原桃林　河崎渡口より大師河原迄の間ゆゑく田園悉く桃樹を栽ゑたり。故に桃花の時に至れば紅白色を交へて奇観なり。

除厄大師堂　大師河原にあり。金剛山平間寺金乘蜜院と号す。

真言宗ゆゑく醍醐三宝院に屬す。

大師河原と号す。永祿二年小田原北条家の印判ある役帳に行方与次郎と云人此地を領せしとあり。

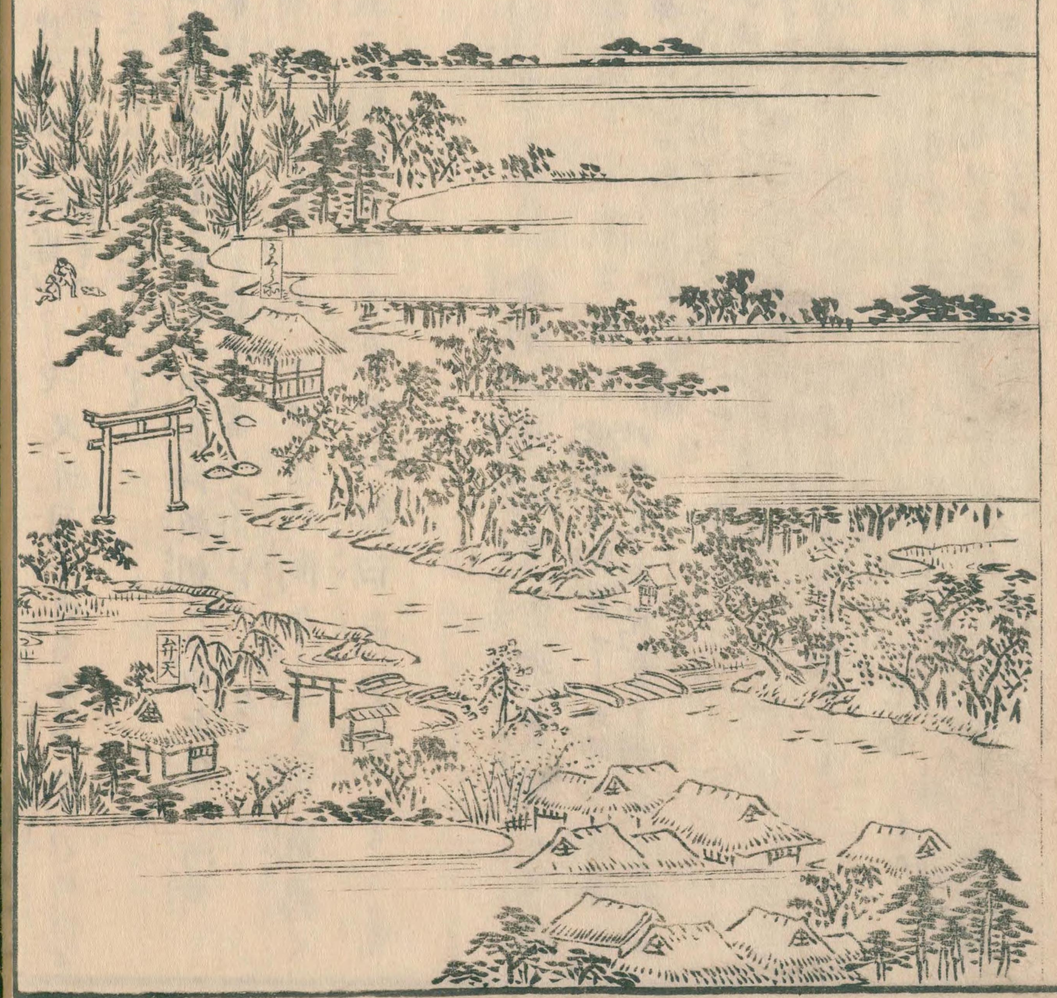
弘法大師像　弘法大師の真作ゆゑく海中より出現あり。

一名佛體悉く貝売相著てあり。

額　金剛山　石川左近亮頼直筆　客殿に平間寺と書せしも同一人の書なり。

六字名號石碑　堂前左の方にあり。石面中に南無阿弥陀佛とあり。傍に寛永五年三月二十一日雪翁月盛居士と注し花押を印せり。碑蔭に武州江戸京橋紀伊國屋櫻井又太夫三月二日御靈夢の所大橋ゆゑく大師の御筆を蒙り此名号法名雪翁月盛居士万人に愚筆を深く

河崎山王社（かわさきさんのうしゃ）



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

大師河原

大師堂

正五九月の廿一日恭詣多就中三月廿一日八ツ影供ゆゝく詣人稲麻の如く往還の賑ひ尤殷盛

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

供養となすと鐫付けり東海道名所記に云く寛永年中江戸京橋の紀伊國屋作内とて一文不通のものあり酒を造りて業とを作内深く此本尊を信仰して常に歩行ひ運ひける中に大師六字の名号を書き授くるの夢中に大師へ参詣して六郷の橋の上にて筆一對拾ひ給ひ夫より大師の教へ當寺の大師へ参詣して筆勢殊に類なくもそれは作内石塔に名号を書き鐫つけ大師河原へ建てうされと外のものは一字をも書給さりきと云へ

縁起曰弘法大師の霊像は大治年間此所の浦に住る平間氏某なる漁人常に三寶を敬ひ家貧しく産業を弘んん方便もなく空しく年月を送り迎へ既に四十二歳の年にあたり依て災厄消除を神佛に祈ることあるに或夜大師告て曰く我昔在唐の日自ら吾が肖像を彫して有縁の地に漂着をへしやを誓ひ海水に投じ後久しく海底にありしが今幸に此浦に止る汝網を下して是を拾ひ永く此地に化益を布厄難を除滅し人々の所願圓満なるべしと漁人夢覚て奇異のおもひをなし明夜のあくるを待て海上を見渡すに一條の光明赫たるひのもと所に舟を寄せ徊徘徊して往古慶安年間此地に貌小さき大師河原村池上氏の家に蔵せり

假ま一の法令を立て大居目礼古佛座等の名を設けを酒量を
様さんとく大盃を執く勝劣をろ〻
水鳥記よ詳なり　此書江戸と京都との二本ありく仍まても刊本く揚次
自ら著せ　又此家よ酒戦の時酒徒よ示せる制札あり　欄損
戯編なり　今ろ〻其半を存せり揚次の書なりとく墨の點なくなりく古色疑ふべき
されとそ文水鳥記よ出る所と必く異なり　そ奉よ連る酒客の名左のぬし

六位大酒官地黄坊樽次
毛藏坊鉢呑　同　江戸大塚住
佐藤攅兵衛胸赤　同　赤坂住
鈴木半兵衛飲勝　同　小石川住
名下屋半之丞盛安　同　舩町住
木浦新之丞飯嚥　同　浅草住
三々木弥五郎樽明　同　冨坂住
佐兵衛門酒助呑　同　麻布住
同左衛門夜久丸呑　武州八王子住
齊藤傳左衛門忠呑　同　南河原住
喜太郎醒安　同　大師河原住
松井金兵衛強成　同　蕨驛住
同佐兵衛忠秀　同　川崎村住

相州平塚住
同鎌倉住

來見坊樽持
甚銕坊常赤
以上十七人

大蛇丸池上太郎右衛門底深　武州大師河原住
池上長吉底成　底深長男
百助底平　同二男
七左衛門底安　同舎弟
左太郎忠成底深
三郎兵衛強成底深甥

四郎兵衛底廣
山下作内請安　底深従弟
藪下勘解由左衛門早呑
竹野小太郎盥呑
同弥太郎數成
栄倉八左衛門吐次
田中内德坊呑久
朝服九郎左衛門捕呑
ゟ九二郎常佐

以上十五人

末廣松　稲荷新田石渡氏の門辺ゟ
酒徒く四郎兵衛底廣といる人の末なり　昔を

武州稲荷新田住
江戸赤坂住

以上十五人

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

末廣松

庭中林泉の僧拆ありく橋の傍より下戸の輩渡りて注せ一制札を建ることとなり酒客宴飲の旧跡も今田園となる此松も底廣う愛樹ゆゑく末廣と名つけしもの、此家ゆゑ酒戦の頃用ひしとて大盃あり酒七合を容る盃中金泥にて猩々の形を描き金せ一りめりの彩句を注せり

お江戸にてあそびて杉並とやらへ抜る底廣を杉次と号ひ洒落しとぞ

鹽濱

同所南の方北海濱なり寛文九年己酉叶栄雲及ひ泉市右衛門といふ者開初ることと云依て今も大師河原川中島稲荷新田の村く塩を製するの地風光甚佳景なり此地産業とする

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

河崎 汐濱

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

石觀音堂

石觀音堂　同所平削寺より七丁斗を南よあり天台宗にして慧日山明長寺と号く本尊ハ石像の如意輪觀音之故は石觀音毎月十七日道俗通夜参篭を靈龜石ハ門内左の方の称あり土人おほくハ此石ハ往古享保十八年の秋海底より出給ひしと云ひ伝ふ垣の傍よある所の石の手水鉢も二三の靈亀出ぬく漁人と共に此地の漁人引揚もとせしに時不の靈石やくく此捧け揚くく依くく大悲の威神力あるをもて同七月晦日竟よ堂前よ居くり

そされとも今ハ此石破れ損しくく水をさゝくくさゝ

新田大明神社　堀の内山王の社より耕田を隔てく七丁斗南の方渡田村の道より右ゐあり

渡田村の道より右ゐあり　渡田肯ハ旦田ゐ作る

云毎年四月元日と七月二日の暁ゆを必軍馬の駒く音するものありとの

例祭ハ七月二日なり土俗相伝阿北矢口村ゐ攻鎮座ましまを靈社此社よ来ゐ廢子義興公の神本社祭神新田左中将源義貞朝臣の靈なり相伝義貞公延元二年丁丑閏七月二日越前國足羽の里ゟ戦ひ利あくく竟よ主あき矢のあゐ亡ひあくくハ骨鯁の臣亘新左衛門

河崎新田社
無動寺
亘新左衛門墓

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

尉早勝無念の涙を拭ひ兼ね深泥の中を捜し求く
義貞公の差添の名剣と七ツ入子の明鏡及陣羽織等并
三種を以く此地より携へ帰り幽室に安し朝夕給仕をるの
公の生前に異なるなし早勝終に弓馬を捨く人に面
せず一向静座しく餘齢を養へども然る里民等公の徳哉
追慕しく三種を早勝より乞ひ清潔の地を求めく孤松の
本の土中に埋蔵し廟を営て新田大明神と崇まつりせ
此地の鎮守とせるより御開國の後祭田等を附らるとぞ
其孤松今ハ枯てなし

太平記曰越前國足羽合戦の条下に軍散く浪氏家
中勢巫重國と云尾張守高経越前の前に恭て重國に
新田殿の弟一族と共に藤島の城に籠るを討く首を取て作ねハ
誰とも名乗ず縦ハ名字をハ知ねども馬物具の様相
順し兵ともの尸骸を見く腰をきり討死を仕ける躰
何様尋常の葉武者ともあるべしと覚く件是を其死
人の膚に懸く作る護符く血をを未あらハぬ
首より上の著くる金襴の守を剥てそ出しくりける尾張守
此首を能く見給ひくあるに不思議や世に新田左中将の
顔つくり似くる所あるぞや若それあらハ左の眉より上に
矢の疵有へくと自賛揃を開き髪を撥あけ血を
洗き上をあらひ落して是を見給ふに果しく左の眉の
上に疵の跡あり是ぞ弥心付て帯くる二振の太刀をハ取
寄くと給ふに金銀を延く作くるを一振ふを銀を以
金滕纏の上に鬼切と云文字を沈くり一振ふハ金を以
銀脛巾の上に鬼丸と云文字を入らるこれハ共に源氏重
代の重宝なく義貞の方より借めれハ未くの一族

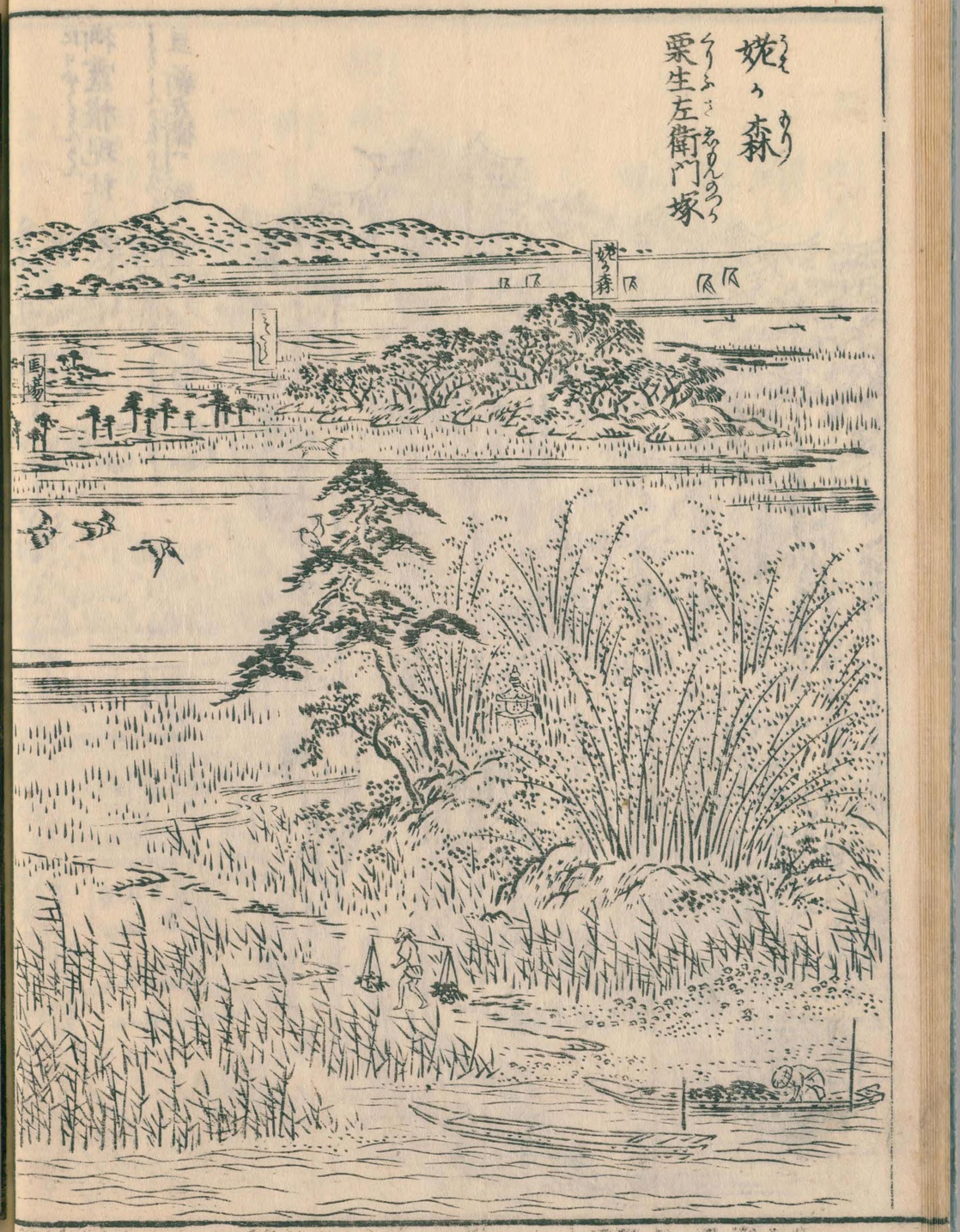
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

御霊権現社
亘新左衛門塚

共の帯へさせ太刀あそ非をとろ弥怪くれハ屑の守を
聞そくん給ふ吉野の帝より御宸筆ふく朝敵征伐之
事叡慮所向偏在義貞武功選未求他可運早速之計
略者也と遊されそ拍ハ義貞の首よ相違なくもろ
とく尸骸を與よ衆せ時衆八人よ舁せく葬礼のるま
往生院へ送くれ首をハ朱の唐櫃よ入氏家中務を副く
潜よ京都へ上せくれくり云云

新田山成就院聖無動寺と号ハ同所一丁斗南の方同し
側よあそ新田大明神の別當寺ゆへく新義の真言宗
六郷の宝幢院よ属せり本ゑる不動明王ハ弘法大師の作
ゑーく義貞公護持の霊像なりとの
左のお相伝義貞公入間川よ陣を布ゑ今別堂を建
よおり立のハ滝舎退治の心願あくハ亘田の里よ安置しゑる所の

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用



焼ノ森
栗生左衛門塚

不動尊を崇信せよとなり依て義貞公此霊像を誓願を
こめて竟に高時を討亡しものと
亘新左衛門尉早勝居住旧址同所門前半町あまり西の方道
より左よある此地ハ元弘の頃亘新左衛門ノ采邑ゆえ則此
地を住しゝとぞ早勝没するの後も里民其旧恩を忘れず
しく一祠を営建し早勝の霊を鎮く御霊権現と
崇敬せ傍ら早勝の墳墓あり
層塔なり

焼ノ森 成就院 七八町計南の方海濱よあり堀の内
山王の旅所ゟく西の方へ續き馬場の形を存せ土人義貞
馬場なりと云ふ池ハ森の中よ寄附の
有ゟく繞ゟその形を存せるのみ

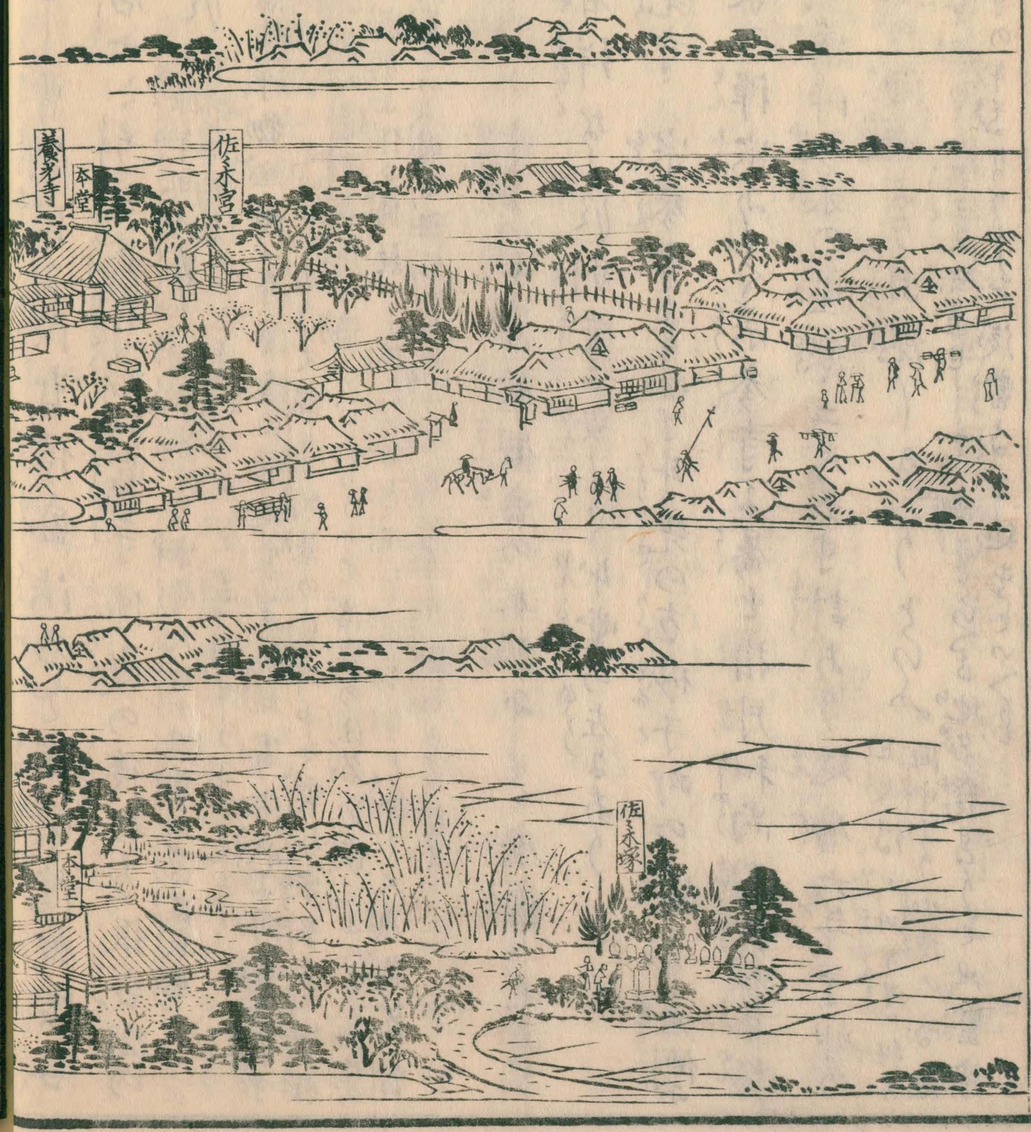
栗生左衛門尉忠良塚 同焼ノ森より八五丁計西の方海濱に
臨ゟ方八間斗竹藪の中よ有り五輪の石塔おゝく文字剥落せり
相伝ふ

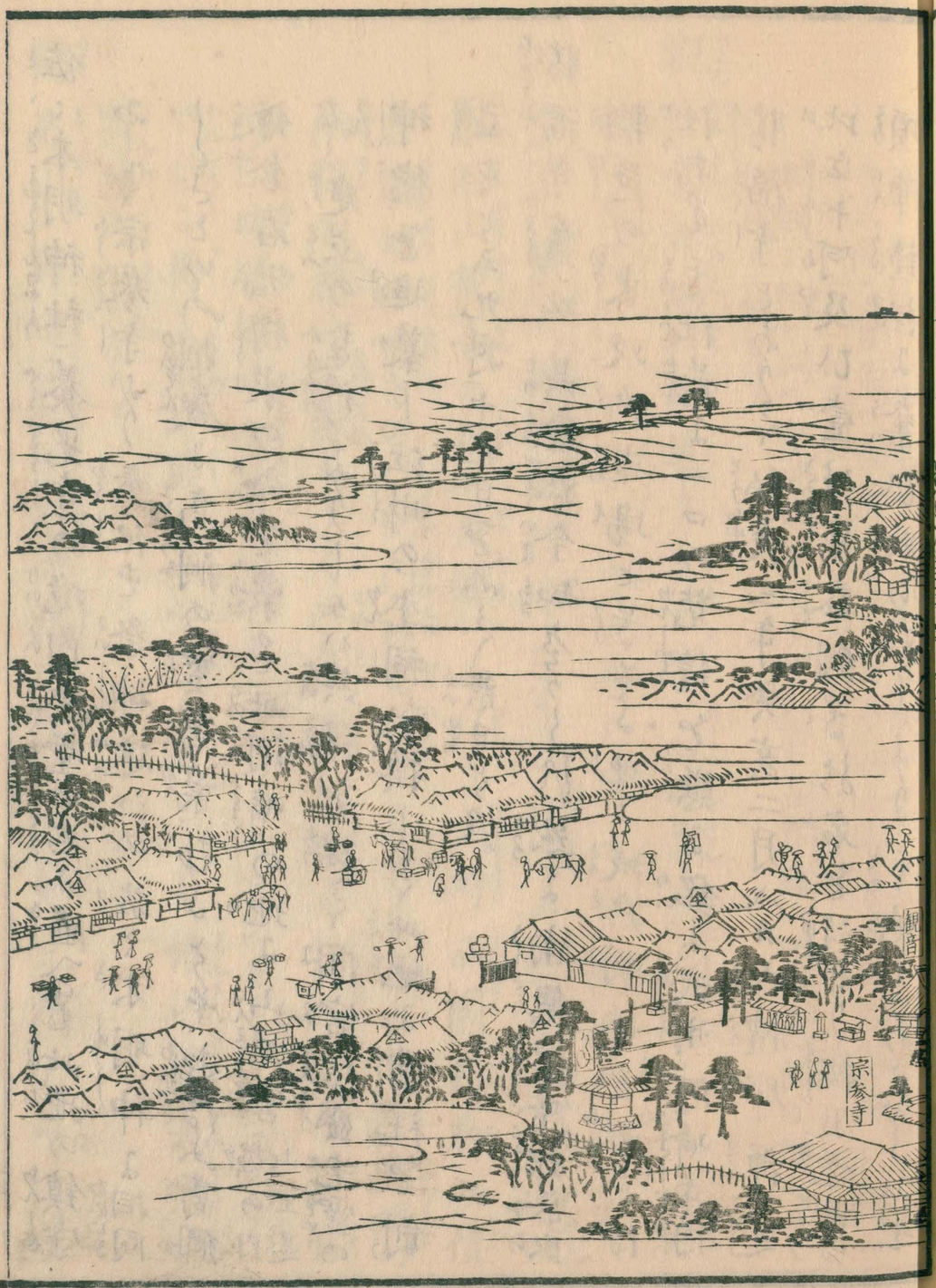
忠良卒るの後早勝朋友の信を以て其靈骨を此地に
埋蔵し塚を築くとぞ
瑞龍山宗參寺　河崎驛砂子町の右側の向ひあり洞家の禪
刹みぢく末吉の宝泉寺より屬せり
一尺五寸計の唐佛なり脇士ハ文殊普賢の木像にして
作者詳ならず　當寺古ハ藥師の別當寺なりしと云
養光寺の藥師此寺よりありしと云その頃ハ砂子一邑悉く當寺
佐々木四郎高綱の香花院みぢく
食地なりしとぞ　開山ハ臨室玄統和尚と号昔ハ濟家の
禪林みぢく鎌倉の建長寺より屬せしものゝ遥の後天正より至
小田原北条家の功臣間宮豊前守信盛と云ふ人永禄二年小田
原役帳よ間宮豊前守領武蔵久良岐郡杉田江戸川崎小机末吉東
郡小雀入西郡冨屋三浦元文珠坊知行の地多きに六百九十八貫百九二文の
地を領る　佐々木四郎高綱う遠裔なりしハ寺境方八丁を寄
附し末吉邑宝泉寺四代の住持自山長老を請して當寺の中
興開山と曹洞宗と改む　信盛法名を瑞榮院殿雲谷
宗三大居士と号し其石塔ハ當寺佛殿の後の方銀杏樹の
下に存ス　元禄年間幕下間宮家より宗參大居士供養の為其采邑
川崎小田村ぶみぢく寺領の地を寄附せられしとなり
按ずるに當寺什物元禄四年辛未四月間宮家寺領寄附状より間宮豊前守
信盛法名宗三とありて又當寺開基の墓碑ゆゑ雲谷宗參居士佐々木
前豊前守入道源康信と鐫りしむねあるハ信盛の法名を宗三と作り康信の
法名を宗參と作る猶疑ハし然れども寺号を宗參寺と称し又康信當
寺の開基といふ時ハ康信の法名ハ宗參なるもの疑無きふぜひ

高綱護持の本尊ハ如意輪觀音の木佛ゆぢく座像一尺五寸
あるも作者詳ならず　別堂よ安置ぢく本堂の左よあり
海栄山養光寺　宗參寺より四丁斗先の方砂子町の道より左側ひ
あり洞家の禪宗みぢく宗參寺より屬せり指月和尚開創の寺院
う本尊藥師如来の座像二尺五寸計あり　延暦六年丁卯の
とし此地の海中より出現しまふすと　傳云此年ある往古
濱の砂子を集めぢく其上よ安置せしに　土人海中より生現ると地名發ると
昔ハ宗參寺の本尊なりしを後當寺よ遷せしと

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

河崎
宗三寺
養光寺
佐々木宮





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

佐々木明神社 養光寺の境内本堂の右よ並へ此地の鎮守
ゝく宗参寺より奉祀を祭神近江の佐々木明神よ相同
しきとの相殿よ高綱の霊を崇むるとをお傳よ高綱
鎌倉右大将家の命を蒙り此河崎の地よ山王宮
建立のなか初めりしハ其縁を採く間宮信盛先霊の
神徳を追慕し江州の本祠を摸しく此地よ當社を創
勝福寺舊址 其廢趾今知るゝ
輪邑の東坂戸市場と号る地よ坂戸明神と称ふ
社あり 社前よ一口の梵鐘を懸る銘よ武州河崎庄内
勝福寺とありく弘長三年癸亥二月八日大檀那禪定
比丘十阿及ひ壹岐守泰綱等の名を注せり按よ乱世の
頃陣鐘抔よ鬻ひ取られしより
地ゆへあるゝんを

（弘長と号ハ五月十三日改元あり 甲戌今日書畨の間廣満所ハ太郎右衛門尉武重と口論よ及ふと云く然る時ハ東鑑よ記せ初の壹岐前司泰綱とあへハ此泰綱ハ四郎高綱の甥なり）

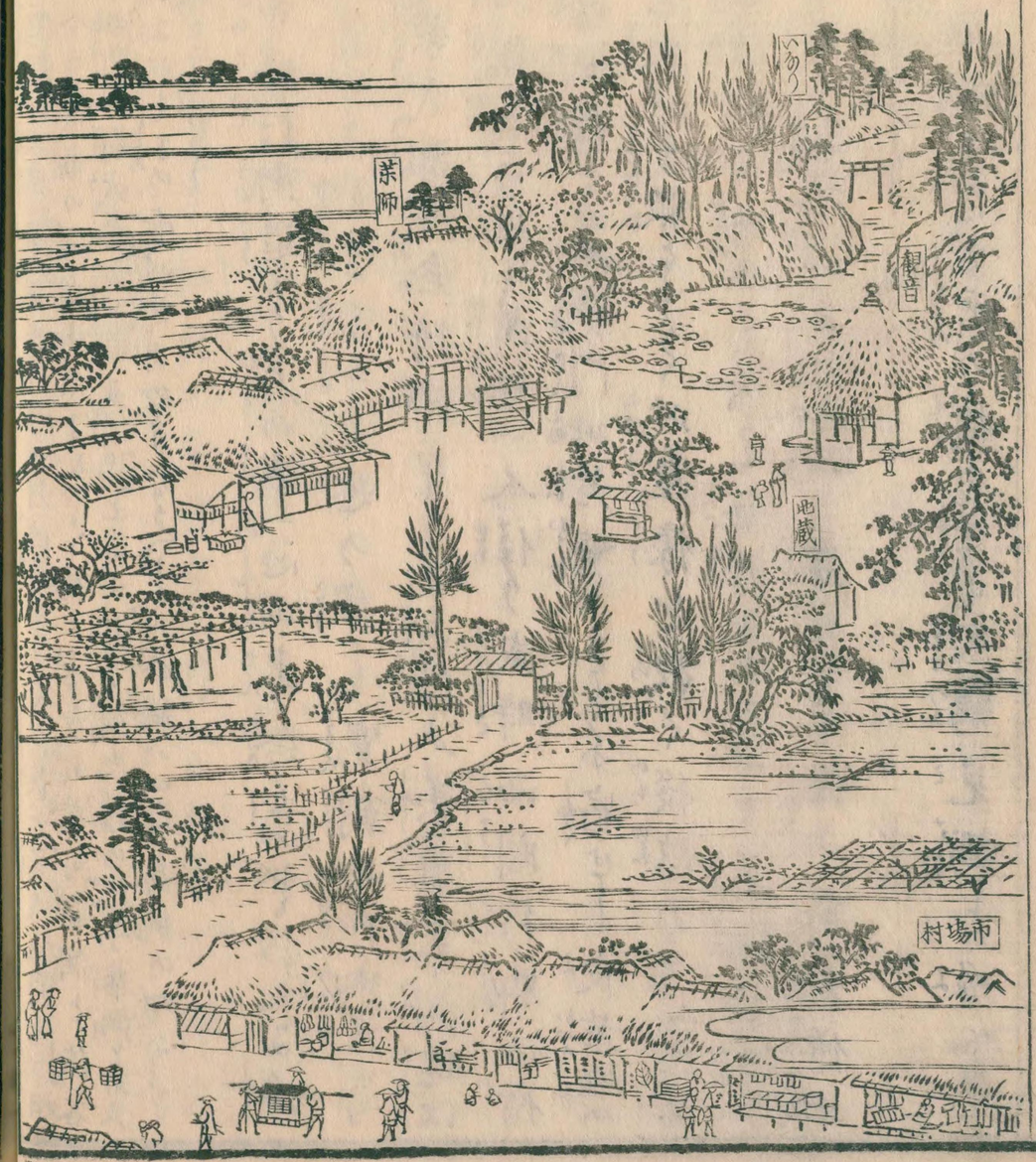
觀音堂 市場村街道より左の方一心山專念寺と号る浄
刹よ安置せり 本尊千手大悲の像
ありく紫式部の念持佛なりと云傳へ兼應年間近江
國石山觀音の辺よ老嫗一人住りしが或時西國行脚の僧
愚蔵坊照西とゝ沙門此老嫗の
病悩を救ふを報とてく此靈像を
寺よ安置なるとゝも毎月十七日ゆも兼誌の人多く
本堂よ掲る額よ一心山と書せるも縁山前大僧正
雲外の筆なり
鶴見川 海道よ架る所の橋の号も又鶴見橋と唱へ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

長二十七間水源八多磨郡小野路都筑郡長津田及ひ橘樹郡馬絹の辺より發して恩田川早瀬川矢上川鳥山川佐江戸川等の川と落合ひ鶴見村より至る故より鶴見川の号あり梅松論ふ元弘三年五月十四日鎌倉方討るとして武蔵守貞将大勢あて向ふ下総より八千葉介貞胤義貞と同心の義有て攻上る間武蔵の鶴見の辺より於て戦ひ打負て引退くとあり

末吉不動堂　末吉村よりあり西よりあり明王山不動院真福寺と号ひ天台宗ふして品川常行寺より屬寺本尊不動明王を安置ふその像も坐像ふして六尺餘あり慈覚大師の作とふ本堂ふハ十一面觀音を安ひ坐像二尺斗り行基菩薩の作あり仁王門の額真福寺と書せしハ増上寺大僧正智堂和尚の書あり

市場觀音



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

末吉不動堂

秋田城介義景旧舘地　其地今ハ東鑑ニ仁治二年十一月四日　将軍家武藏野開發の沙汰違ふ事ありて義景ハ武藏國の鶴見の別莊ニ渡御煩ひて仕觀ありとあり

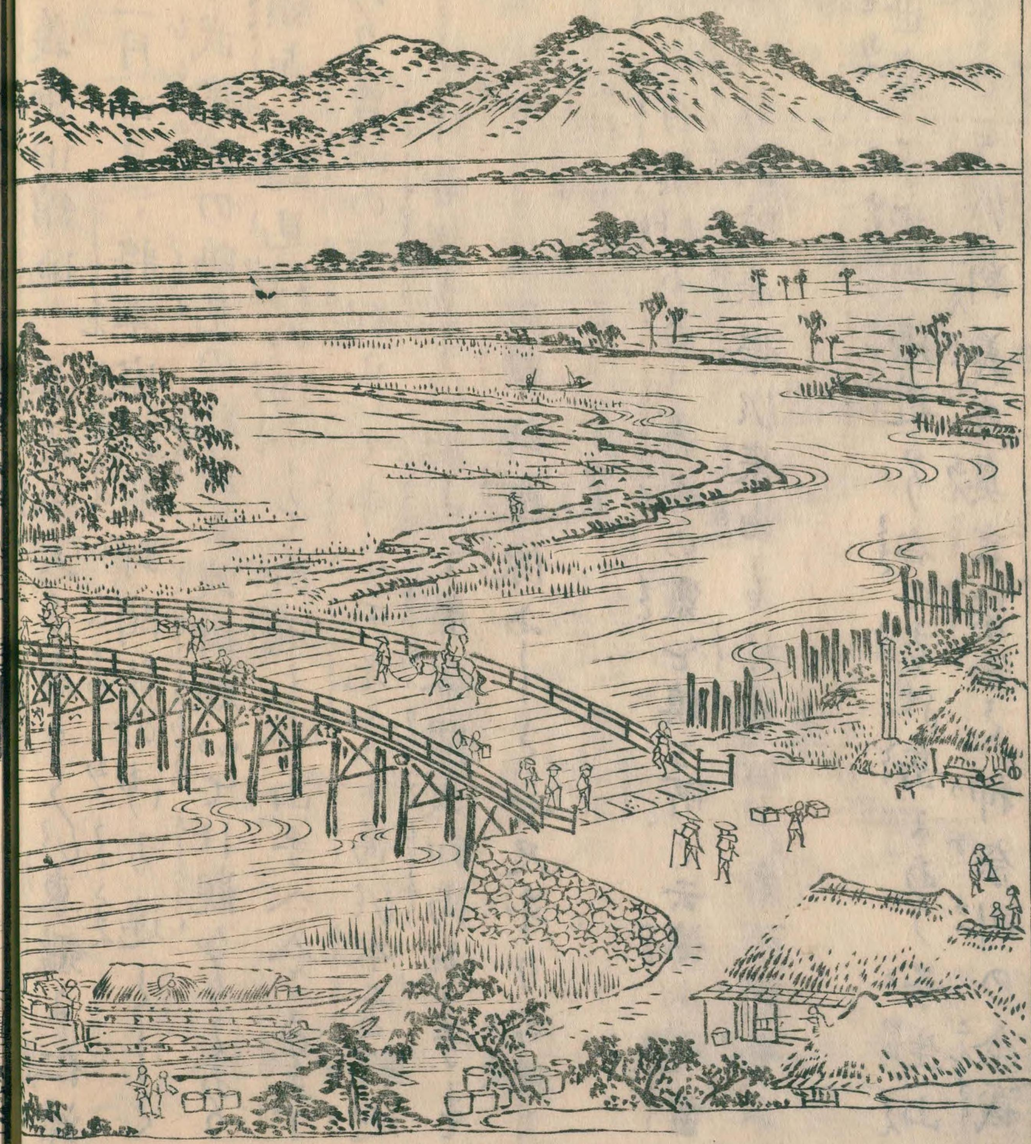
醫王山成願寺　鶴見村の内ニして街道より山手へ入る事三丁斗ニ曹洞の禪刹ニして寺尾天光寺ニ屬ス本ハ釋迦如来ニして作者詳ならず開山ハ聲菴聞大和尚ハ号ハ薬師堂ニ安ハ薬師座像ニしてともニ作者知ずとぞ

白籏八幡宮　白籏村ニあり義經の靈を鎮る所と云傳ふ別當神奈川能滿院兼帶ニ来由ハ拾遺江戸名所圖會ニ詳なり

子安観世音　子安村海道より右の方北ニあり子生山東福寺と号ス新義の真言宗ニて神奈川の金藏

鶴見橋

橋より此方ハ
米饅頭を賣
家多く此地の
名産とす鶴屋
もとハくるまの元
旧く慶長の頃
より相續すと
そ



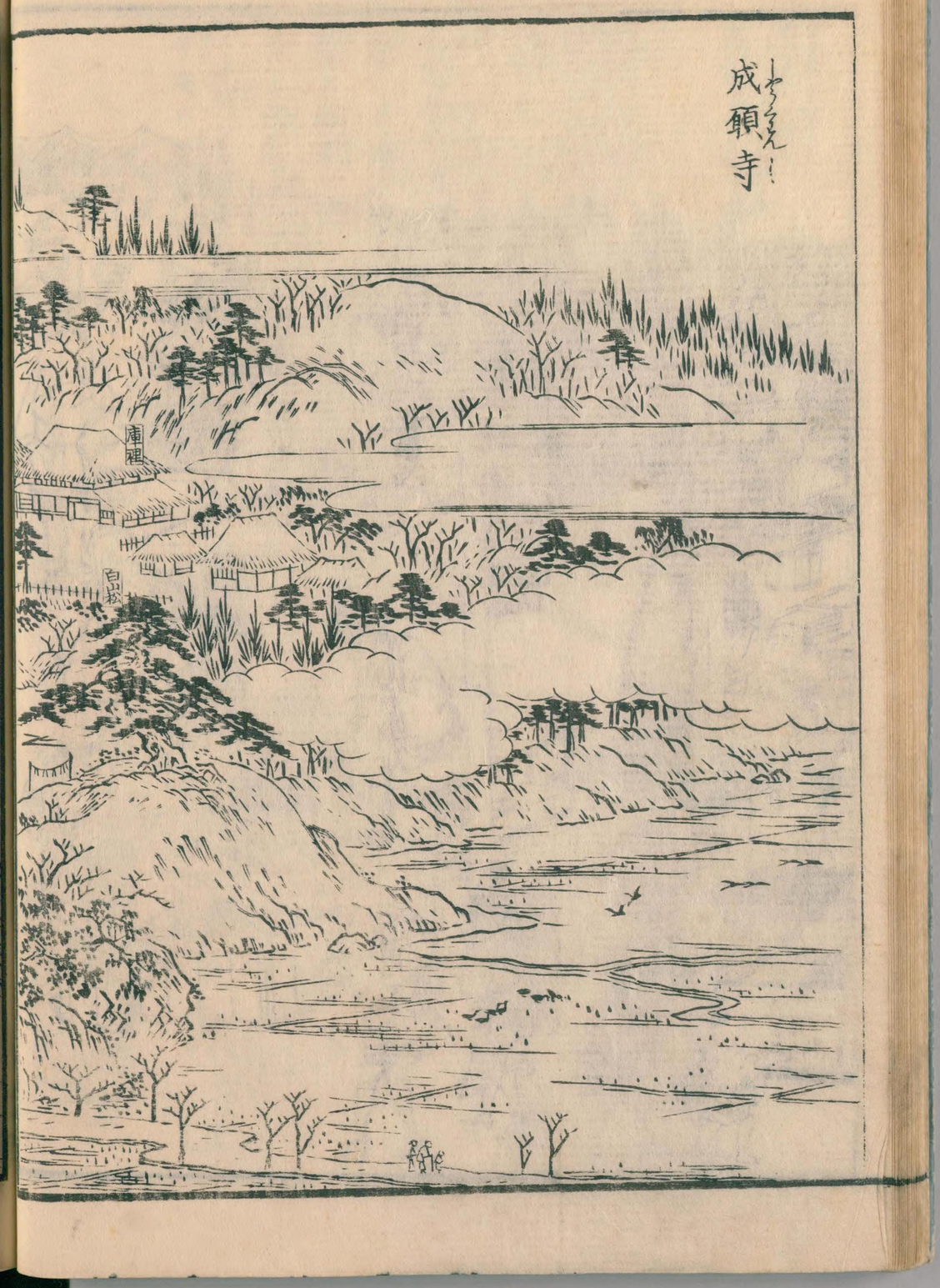
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

生麥村 名物茶店

生麥ハ河崎と神奈川の間宿なり立場なり此地名物の水茶屋ハ享保年間鬻ぎ初し梅干を開きしより梅漬の生姜を商ふ往来の人休ふ事今時の繁昌

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用



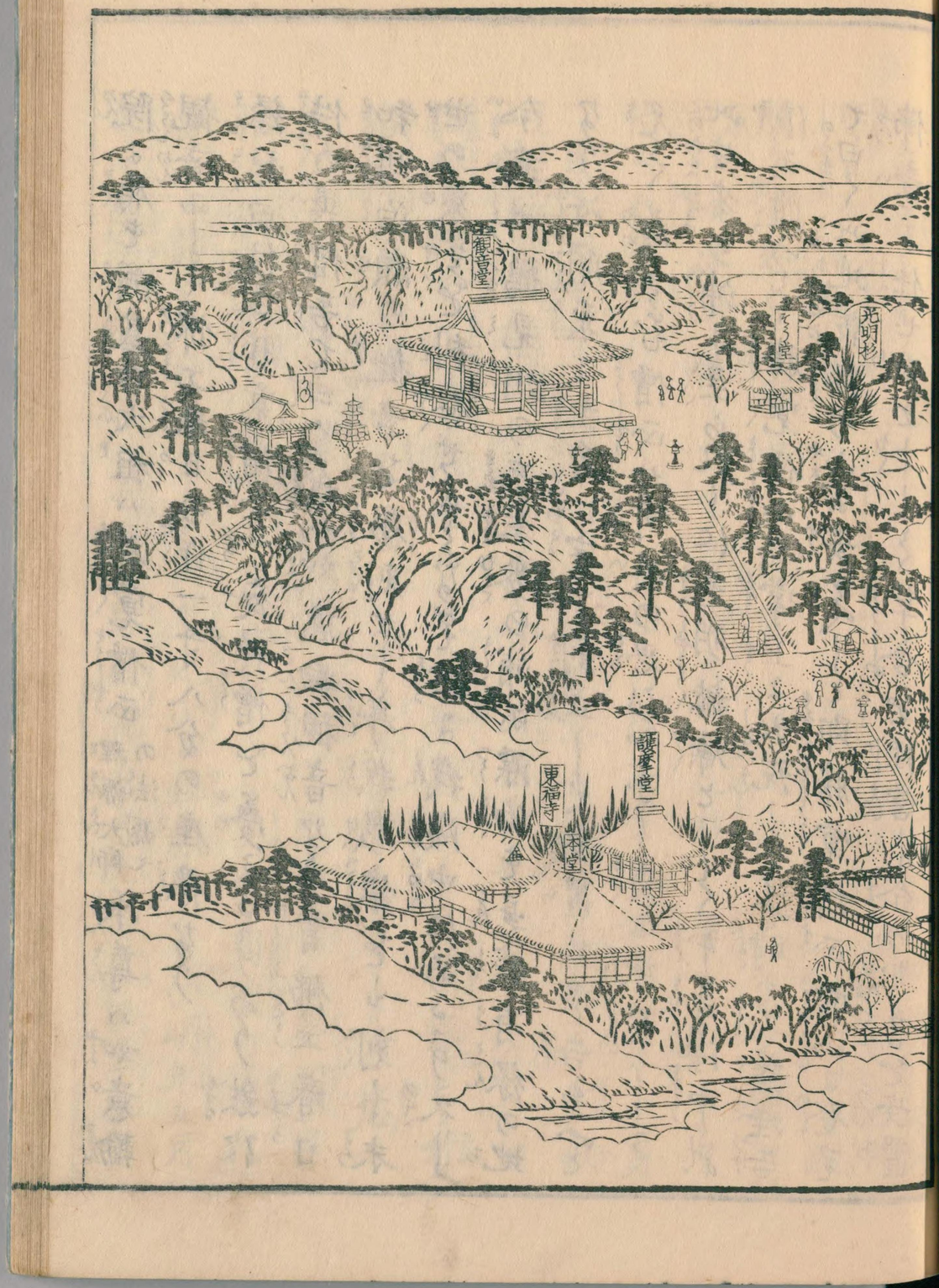
成願寺

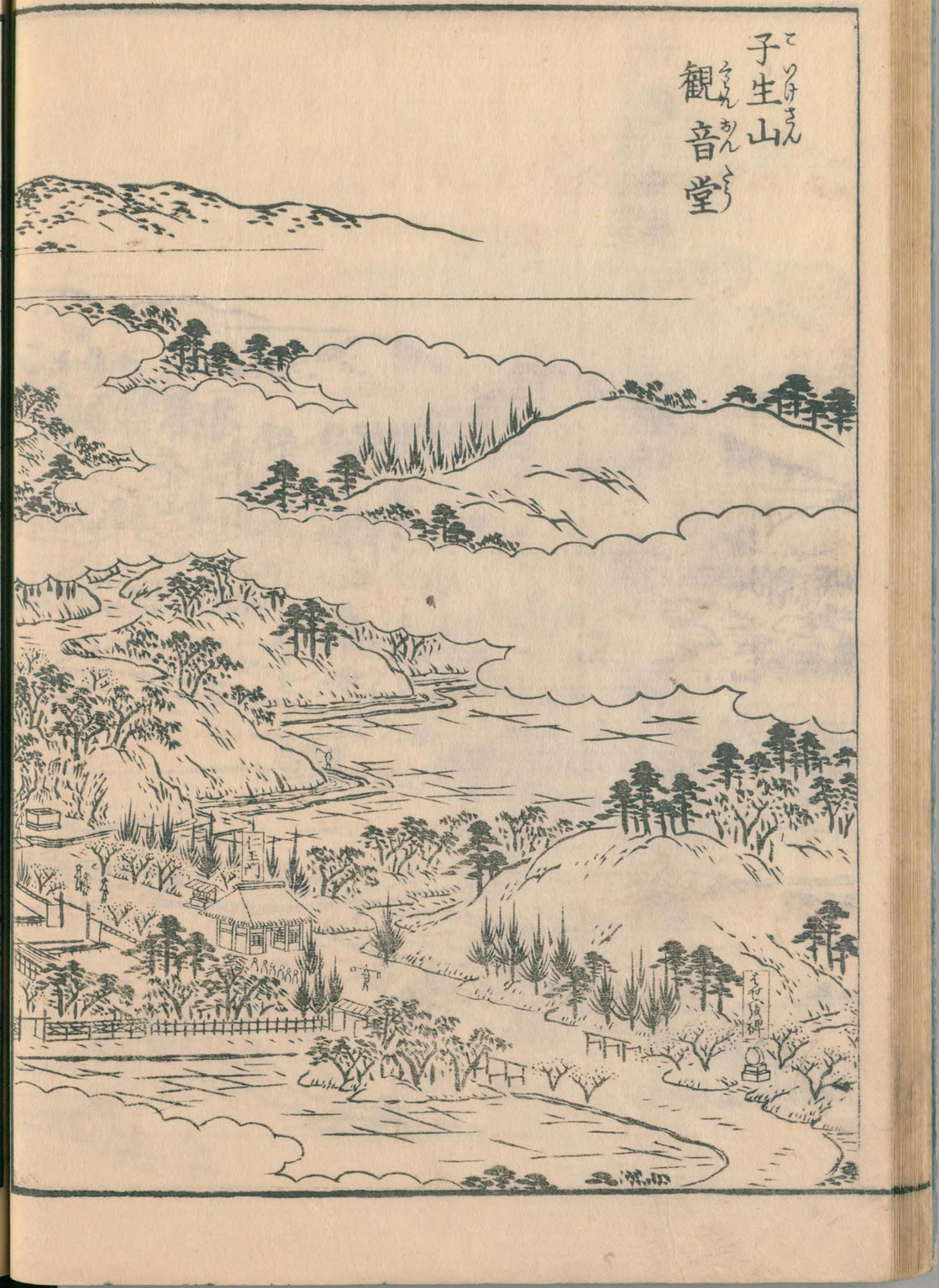
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

白旗八幡宮

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用





子生山
観音堂

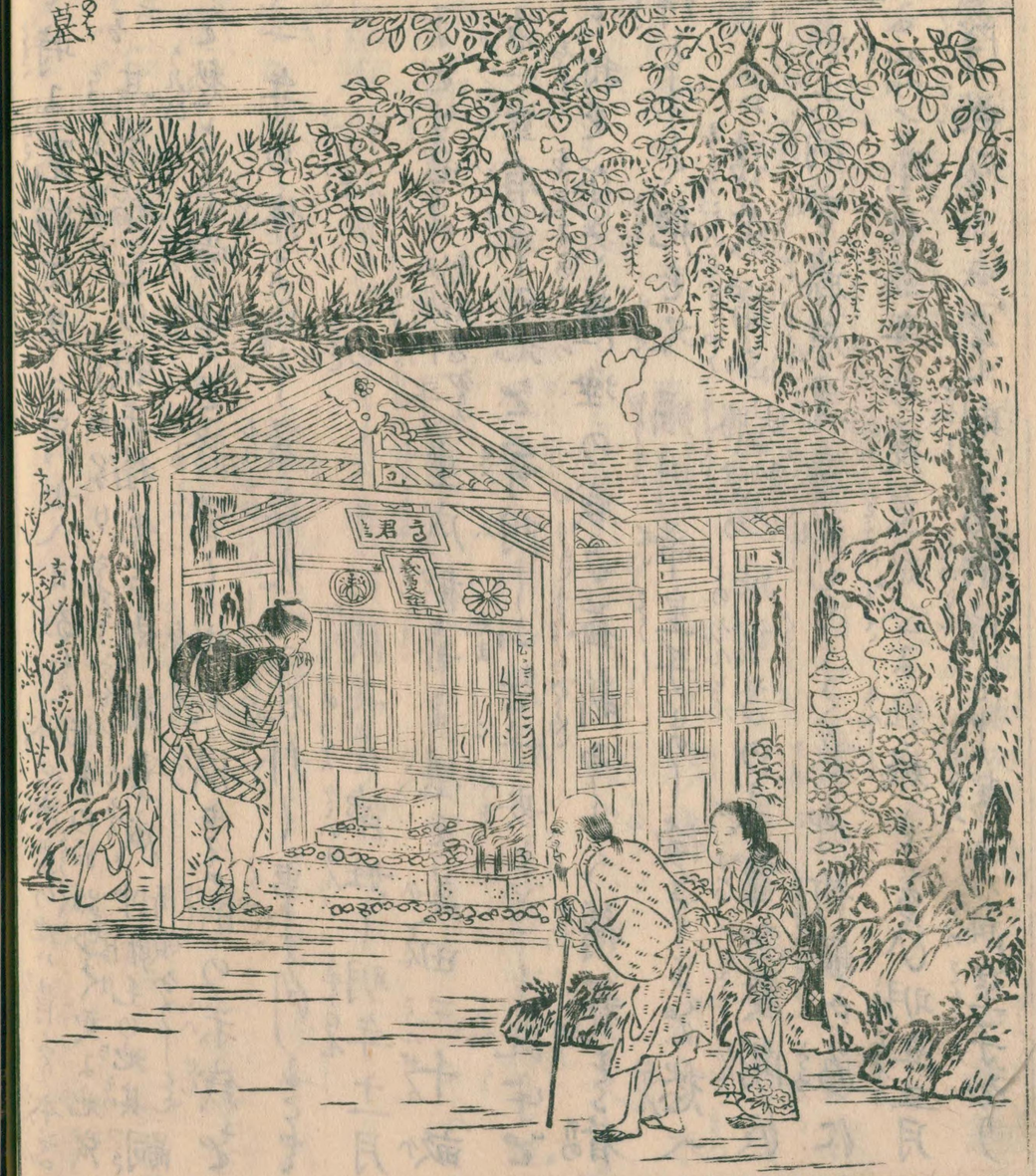
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

院よ属を開基の大祖ハ勝覚僧正理源大師の法孫本尊ハ如意輪
観音ゆゑく佛工春日の作一寸八分の座像なり
縁起曰往古勝覚僧正一夜異僧を夢るゝあり然に
件の異僧告て曰く我ハ如意輪観音なり昔佛工春日
和州泊瀬の観音を彫刻せし序我形像をも刻し来
世の衆生を利益せよとなり然よ我海中にあること久し
今武州鶴見川の末生麥の浦ゟ漂泊を是我有縁の地
なり汝開東よ至を一宇を創立して安置せおと告のこと
ゑく夢さむ僧正ハ奇異の思ひをおこし直よ旅装しく
此生麥の浦よ至られしに光明赫燦とし〳〵く在る海中より
浪ゟ隨つゝく勝覚僧正の掌上よ出現しまゝ時ゟ又薩埵告
て曰く此地乾隅の山よ安をへしと即勝覚僧正當山よ登り
佛意よ任せ地をトし〳〵く草舎を経営し今のありを安置
せるゝ時よ寛治元年三月十八日ありしを
改しと云 其後稲毛の領主稲毛三郎重成
なるを愁とし〳〵堂宇を修営し緒人供する所の米銭を
乞ゝく一年の俸よ比し〳〵晨昏大士へ礼拝し事ありしこと
恰も君ゟ給仕するゝ如し〳〵三年の後其妻懐妊し明年十月
一男子を生せり 重成歓喜よ堪ず美田三千畝
山林方一里有半の地を寄附し山を子安と号し院宇を
植本と称を尓来薩埵の威力益新ゝくゝ禱賽する者
絡繹とし〳〵絶をゝ又堀川帝皇子まし〳〵ゝ
ゐしゝハ勝栄僧正 勝覚の 此ゟ半ゟ
依ゝく前大納言藤原道房卿をし〳〵其御祈願のゐに
當山よ詣てし〳〵む三年の後皇妃正よ妊娠し〳〵のひ明年五月
太子降誕なし〳〵ゐゝゐゝ則 鳥羽院とやまるハ此皇子あり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

義高入道墓



按ずるに鳥羽院ハ康和五年正月十六日より降りて延なり。同年五月ハ誤なるべし。

帝叡感斜ならず勅して子生山東福寺の号を賜ふ。遙の後文亀永正の間東國屢兵戦起りて頽大ゆ衰廃せしこと大悲閣のくだりを厳然たりしとぞ

寺僧云今ゆ至て寄願ある者當寺ゆ限を定めて給仕と称して銭信ゆ祈念し諸願円満ありしとぞ

仙鶴山松隠寺　東寺尾村ふあり

しく鎌倉建長寺雲外庵の佛禅師ハ建武二年二月十八日化寂とあり此地ハ雲外庵の采地なり

享保の頃をハ松音寺と称ひ

淸家の禅林にしく鎌倉建長寺雲外庵の佛寿禅師開創の古刹あり

三年二月十八日示寂とあり此地ハ雲外庵の采地なり

座像やしく二尺計あり

慈眼堂　松隠寺よりさし渡し壱丁斗門を出しく小き坂をのぼり廻りしく二丁半計岡の上よりある十一面観音

本尊釋迦如来ハ

佛工春日の作なり小机札所の一やしく

松隠寺

兼帯せり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

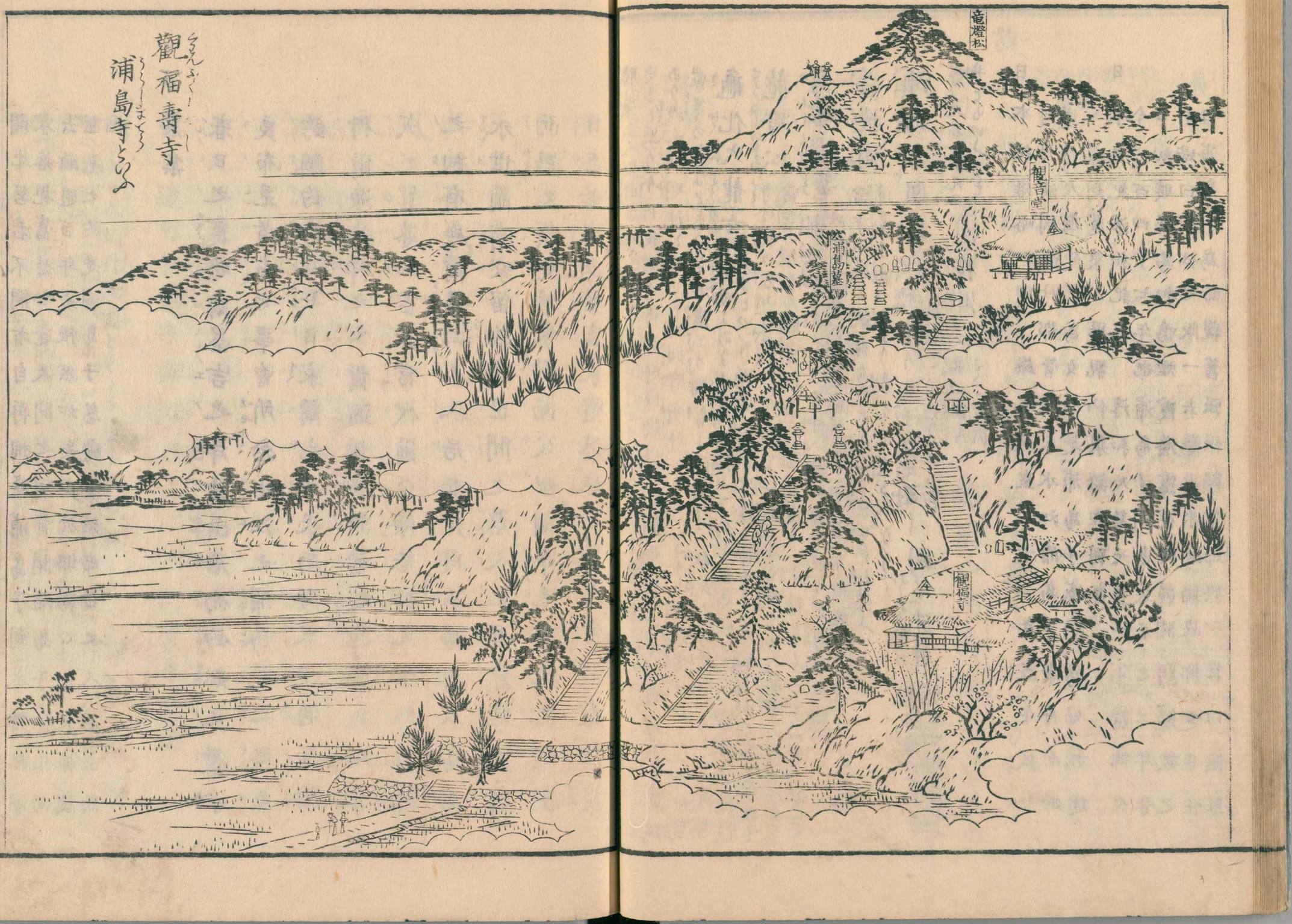
ガラス使用

義高入道墓　仁王門の傍古墳の前より石の地蔵尊を安せし小堂あり軒に
義高入道と記せし額を掲ぐ
と称せ後里見と号小田原の合戦より討死せし人ありと云ふも未考此地の
平田氏某ある其始祖ハ義高入道の家臣ならん
物の中より建武元年より記せし圖あり人名を注せし中より地頭阿波國守護小笠原
内藏人太郎入道といふ名ありこゝふ阿波の國とある
内藏人ハ先の義高入道の祖先ならん或ハ又義高の名より附會しく里見を混し
交へしものそ可考

護國山觀福壽寺　東子安村新宿海道より右の方れ山腰ふ
あり世俗浦島寺と称せ昔ハ歸國山浦島院といひける由
縁起ありといへども當寺ハ淳和帝の勅願ありて檀尾僧都
開基
本堂　本尊聖觀世音菩薩　立像
觀世音との称せり寺傳ふる所ハ當時
浦島子蓬壺の蘭墓よりありし旧里へ走んとせるの日神女一箇の玉匣と共よ大悲の
像をあたへて曰く子今本土へ歸り去らんとすれ仍渡海風波の難を凌き又長生
をもすべしと雖ども竟ハ鳴子ハ帰ふ
靈像をうつし
川の邊ハ
靈像の告よより父のつらの地を卜り像よ草堂を結んて彼大悲
まつりしとあり
浦島明神　本堂よ向ひ八千歳の神社とて称せる祠あり檀尾僧都
社ハ乃ち浦島太郎の靈
勝海上人の時よ至り寛平七年七月七日靈告ありしより毎歳七月七日を祭日
とせるとぞ今丹後國竹野郡阿佐浅川の東網野村といふ浦島子の靈社
あり浅毛河明神と称せり又網野明神とも号く
蒙等の書よ見えたり又和漢三才圖會よ浦島子ハ根見命の後裔ありとあり可考
亀化大龍女　同本堂よあり浦島子海よより釣を垂くるとて
寺の後の方山の頂よあり俗ふ此樹上今も時として龍燈の懸ることありと
龍燈松　當寺の社ハ龍宮相殿の靈像なりと
目當燈篭　此地の農民ハ井某建立せしとぞ今
龍燈松の下よあり夜中入津の船の便とも享保の頃
菩提樹　當寺山林よ數株ありしく年ふる業生
浦島子龍の都より來りしとぞ
浦島太郎墓　堂前よあり島子自建置しと
故よ號ふ
其旧跡今
せり又布袋丸の
井ともいふとぞ
同腰掛石
同足洗井　道の傍にあり
今も里民の用水と

日本紀略曰
雄略天皇二十二年戊午秋七月丹波國餘社郡管川人水江浦島子乘舟而釣遂得大龜便化爲女於是浦島子感以爲婦相逐入海到蓬萊山歷觀仙衆語在別卷長二年歸鄉至春三年復往之後紀淳和天皇天長二年三月九日也浦島子到蓬萊居三百四十七年不還家乃歎而退開闔而歸鄉既非故鄉更往之日今日婦曰君獨無情棄我遠去難再來縱雖與一筥曰愼莫開之日浦島子爲訪親舊強催歸駕

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用



観福寿寺
浦島寺とも

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

開此営若不開著自再相逢浦島子到本郷林園
零落親舊悉亡逢人問之曰昔聞浦島子仙化而
去漸過百年爰悵然如失歩於郵門中大悵閉
匣見之於是浦島子忽變衰老皓白之人不去而
死

万葉集

春日之霞時爾墨吉之岸爾出居而釣船之得乎
良布見者古之事曽所念水江之浦島兒之堅魚ヲ
釣鯛釣矜及七日家爾毛不来而海界乎過而撈
行爾海若神之女爾邂爾伊許藝趨相誂良比言
成之賀婆加吉結常代爾至海若神之宮乃内隔
之細有殿爾携二人入居而老目不爲死不爲而
永世爾有家留物乎世間之愚人之吾妹兒爾告
而語久須臾者家歸而父母爾事毛告良比如明
日吾者来南登言家禮婆妹之答久常世邊爾復
變来而如今将相跡奈良波此匣開勿勤常曽已
良久爾堅目師事乎墨吉爾還来而家見跡家毛
見金手里見跡里毛見金手帳常所許爾念久從
家出而三歳之間爾墻毛無家滅目八跡此莒乎
開而見手齒如來本家者将有登玉匣小披爾白
雲之自箱出而常世邊棚引去者立走叫袖振反
側足受利四管頻情潰失奴若有之皮毛皺奴黒
有之髪毛白班奴由奈由奈波氣左倍絶而後遂
壽死祁流水江之浦島子之家地見
常世邊可住物乎劔刀己之心柄於曽也是君

(投るふ日本紀丹波國とそれさる前ゐれハより續日本紀ふ元明天皇の和銅六年夏四月乙未よ丹波國五郡を割くしめそ丹後國と置とあり後与社郡ハ丹後よ屬せしそ其地の書皆こゝにく丹後國也丹後風土記和名抄扶桑略記の類ひ與謝よ作る又管川ハ丹後風土記ふ筒川よ作る水江ハ日本紀よ水江とも萬葉集ゆそ或ハ墨の吉とも書り浦島子)

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

浦島古文（うらしまのこぶん）

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

傳 續浦島子傳 とともに澄江より也 按ずるに仙覚律師の萬葉集抄より引所の丹後風
土記は美頭乃麻能宇良志麻之古と有りて水を澄江
義あり 就通して云ふべし

相傳往古 雄略天皇の御宇 日本紀雄略記二十二年戊午七月とあり 丹後國與謝郡管川
の人ふ水江浦島子といふあり 寺記云 相州三浦住人水江浦島太夫といふもの
云所也其子ふ浦島太郎といふ人ありと 大裡の役よ帰りく古書浦島子よ作る寺記ふのこし
或ハ太郎 續浦島子傳よ浦島子何をの人ありと仙を好こし術を学ぶとあり又丹後
國與謝三百嶽を過く形容童子のやうし人と 風土記ふハ日下部 百等ら祖ゆゝく簡川の島子と云是乃水江浦島子ふ云云
一時七月の事なるふ獨小舟よ乗しく海上ふ釣し靈亀を得たり
其形勢を見ふ尋常よあらざるゆゑ 放ちやりぬ 浹辰ありく彼亀化して一人の美女とあり前の恩を
報んとて島子らるを携へて蓬萊山 海若神の都よ至りぬ
かくて後浦島子ハ仙室の莚よ侍し常に靈薬の味ひ残嘗
目ふ花麗を視耳ふ雅樂の樂を聞観宴日を送りぬ 日本後記ふ浦島子蓬萊
萊よ至り居事三年とあり又丹後風土記上ふ同しく 萬葉集ふも載而三歳の年と 敷島の大和の国
も見ず 家をも戀ず 郷里をも憶ず 只婦人と相愛の情のみ有て 俄ち心起り獨二親を憶ふ故ふ神女ふ此るを告れハ 神女ハ島子ろ
別を愁慕ふとも竟ふ止るき色も見えざりしかバ 遂ふ再ひ
一箇の玉匣を與へて云く子遂ふ此神仙境へ来らんとおもハ必此匣の裏を開きえざるべしと
島子ハ其を約しを以事外喜ひ彼匣を受傳へて故郷を
忽ち辞し去る頃蓬嶺の仙都を出るうとおもへハ 与謝の
舊里ふ皎ら着ぬ 日本後記云浦島子天長二年郷ふ帰る今ふ至ら三百四十
三十二代を送ると云云 水鏡よ雄略天皇廿三年と云云 詞林采葉抄云島子蓬萊よ入の後帝王
云く同書 淳和天皇天長二年ことし浦島子蓬萊へ往ぬ 雄略天皇廿三年ことし浦島子ハ
うせぬことし三百四十七年とのひしふくらし 中書 雄略天皇の御世ふ
乙巳よおくれり三百四十 又雄略天皇廿三年己未よ 因く考ふるふ天長二年ハ丈午とも然る
とおくれる三百四十 日本紀 二十二年とし戊午とも然る
八年なり
されと物換星移ら家園ハ変しく河濱とあり山
岳ハ改く江海となる荒蕪の閭邑煙を絶え舊塘寂寞として
道路跡なし 悵しみ
から驚き郷人ふ旧俗の行方を問ふ一人の翁答へく云く昔聞

浦島塚

水江の浦島子といふるもの釣を好こみ舟に乗しく海に遊ひ永く
家に歸らざるといへどもすでに幾數百歳を経るをうらなひ
嬉浦島子傳にうらみ衣を洗ふの老嫗あり蒼へに数百
歳を経るの傳来語に云く昔水江浦島子といふ者あり釣を好み舟に乗しく久江
浦に遊ひ遂に蓋海中に入るより幾数百歳を経るをしらずと日本
後記云むかし淳仁天皇の御宇丹後風土記にも載たり浦島子仙化
して百年を経ると云く
遥に閭と舊里の遷変せしを悲歎し又仙遊の未央を想
像く悲意に堪ず前の誓ひを忘れく忽に玉匣を開きされ
裡より紫雲少く蓬嶺の仙宮に遊ひの間時世
其形容忽然とし衰老皓白の人と変じ云云
万葉集に佐伯の絶而後遂壽死
神代紀に島子俄に老翁となり遂に死も
一説に天長二年の勅を違へ仙遊再會の期を失ひ紅涙千行白鬢を湿し
扶桑略記日本後記上に同し續浦島子傳に島子神
宮を乱其後金龜に乗鳴く毛浪を飲紫霞を
食青彩を服頻鶴を延立く遥に
蓬嶺神鳳の駐を望み時く遠く仙洞の芳洲を観る巌阿に逍遥し
海浦に隠淪し豹尾を攀ぢ後代
記せしものか

延喜式に載あり永仁二年甲午八月廿四日相州鵠川庄福田村宝蓮寺如法道場よりおくり芳命肖き難きふ依て筆跡を顧ず狼籍よ紫毫を馳きぬと寺記云後又八千歳の齢を持ちくく再び海神の都に入やうと諸書の要文を抑當寺ハ淳和天皇の勅願ゆゑく凡九百七十有餘年を歴るゝ古藍くゝも同帝第四の妃ハ浦島子ヶ九世の孫なり妃深く佛乗に帰しもひ帝ふ告まりく空海阿闍梨ふ計ゐ檜尾僧都實慧をしてく是を司らしめ梵宇営構あるく真言の密場となしめよ元亨釋書云如意法尼ハ丹後國余佐郡の人十歳ゆゑく王都ふ入弘仁十三年帝霊夢を感しめの後花使をつかハし妃を迎ふ妃ハ常に如意輪を敬重せるゆゑ一謎を蓄へ人その裏を探る空海後先相競ひく法雫を祈る空海妃の謎を捧く秘奥を修ふる事百歳久しくして天下大ふ旱せし時ふ妃像を造中ふをさむと云くゝ同書の論ふいへるく妃の謎恐らくハ雨澤仙郷ふ棲む天長二年ふつゝか還る浦島子ハたゞ逢瀛の一賓のミ何ぞ謎をあんやとあれども神仙の器まあるゝ是密乗の秘蹟なり浦島子ハたゞ逢瀛の一賓のミ何ぞ謎をあんやとあれども神仙の器まあるゝ是密乗の秘蹟なり破もくく悲酔雨ふそゝき朝の霧夕の月ハ香の煙と燈の光ゝよかるゝ仍くゝ唯機縁感應の時を期もるのミ然るふ應長正和の項鎌倉光明寺第二世寂慧上人纂へ往来せる毎ふ當寺観音へ詣しくく守者もあるゝを歎き法弟慧光上人（姓大森氏相州人）をしてく住持ゝゝしめ二度寺院を営建しめくく浄業の精舎とせしやなり

神奈川驛 東海道五十三驛の一なり

太平記梅花無尽蔵鎌倉大草紙等の書皆神奈川ふ作る此地の名義を次の上無川の条下ふ詳なり

本宿 新町（西の町近四町の間の惣名なり）青木町等の名あるゝを向柱井澤と云地近きくく神奈川驛と云へりゝ

平安紀行 かのそゝくく

海人やふ軒端ふまそるんもしくてあるめえゝぬかの川ゝ里 持資

梅花無盡蔵 文明十七年乙巳

神奈河二日出世戸井赴江戸途中有老松蟠屈其形如竜其処号鵜森

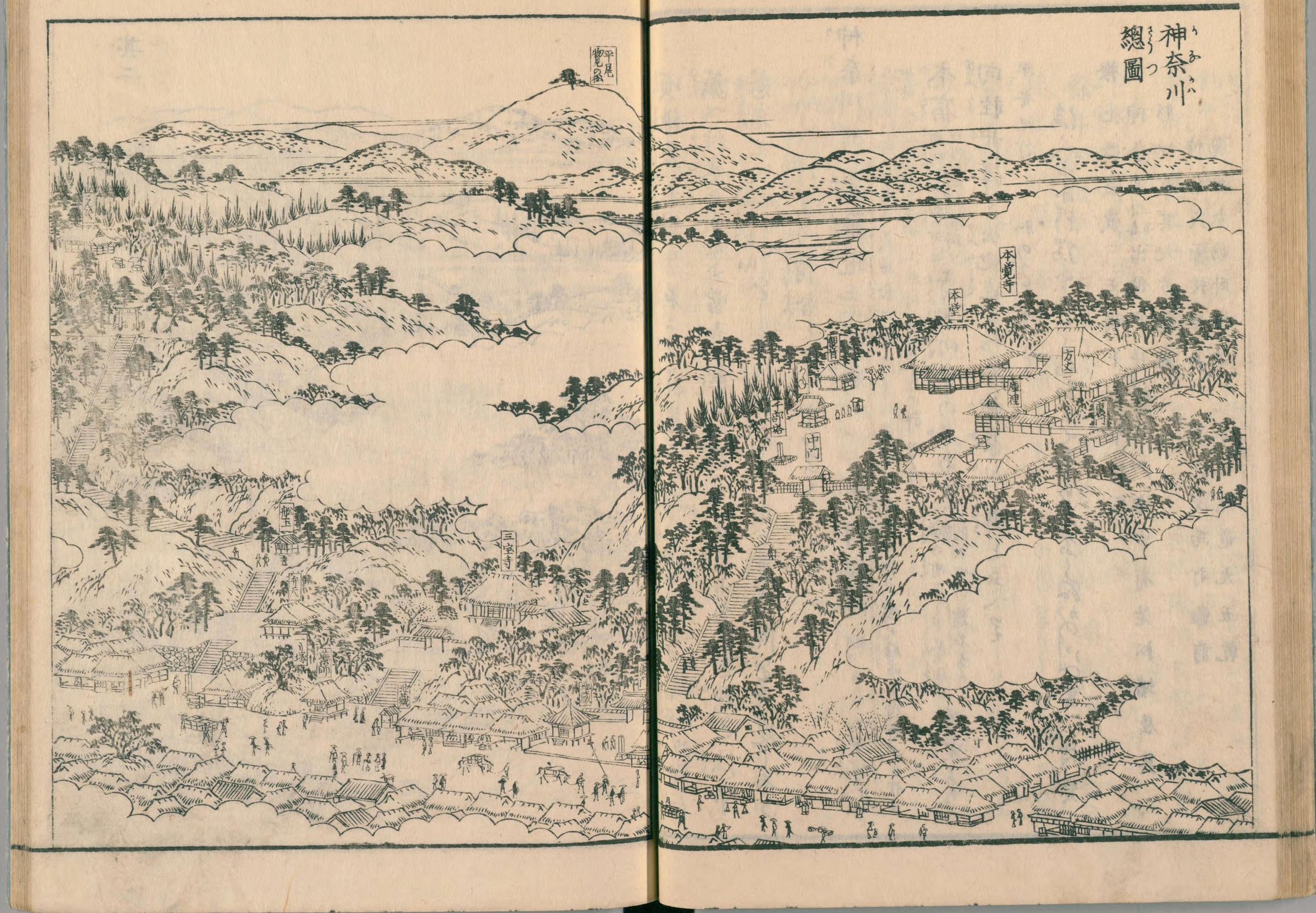
神奈民廓抜屋連 深泥没馬打難前

鵜森春動臥松老 未入飛竜九五乾

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

神奈川總圖

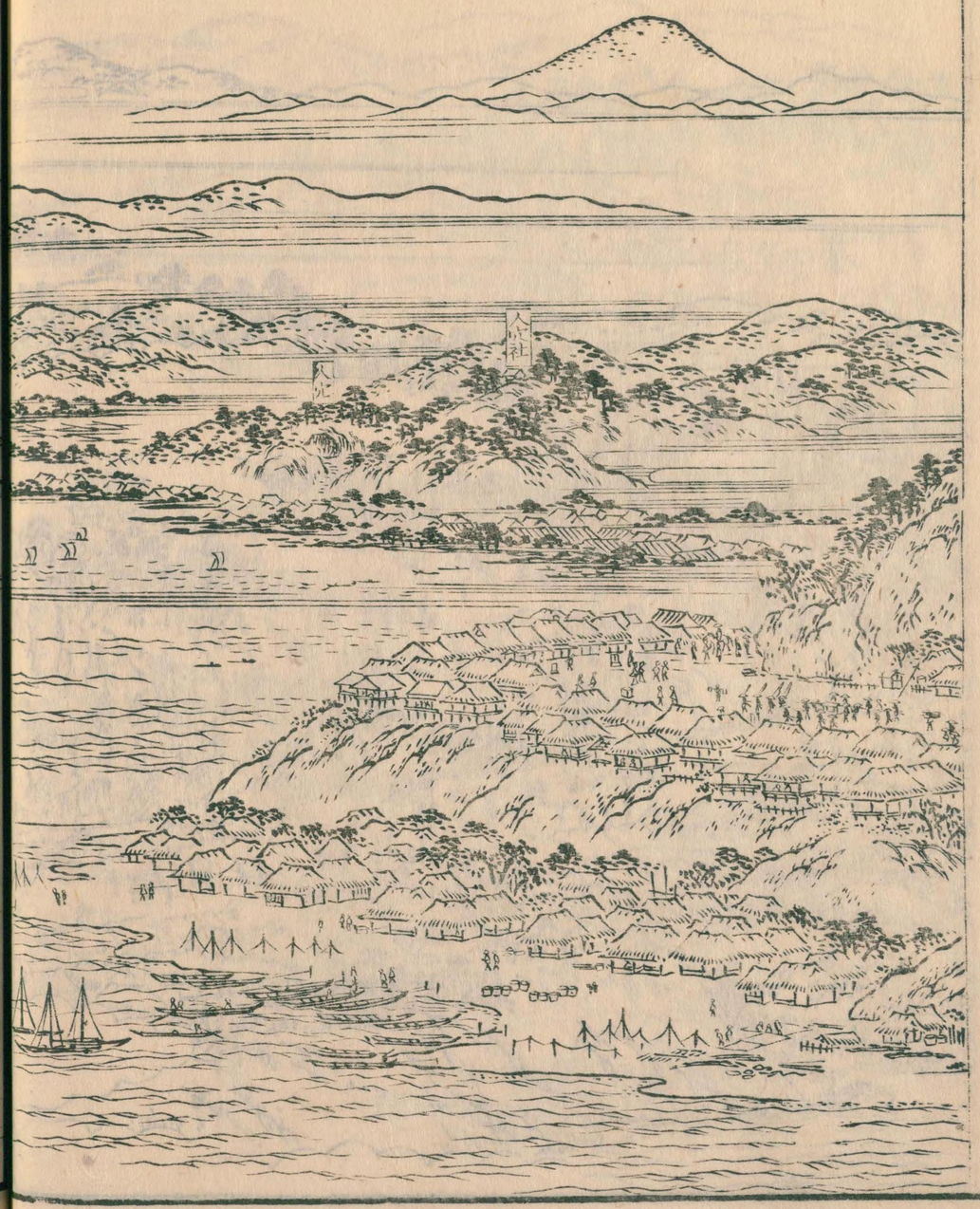


国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

其三



金川駅送別

出餞西省山上山銜杯
為問太刀鏃蒼波幾通
金川海紫氣遥懸玉劒
関遊子浮雲遅暮淚故
人衰鬢川離頽驛亭不
解銷魂色征馬翩々送
往還

南郭

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

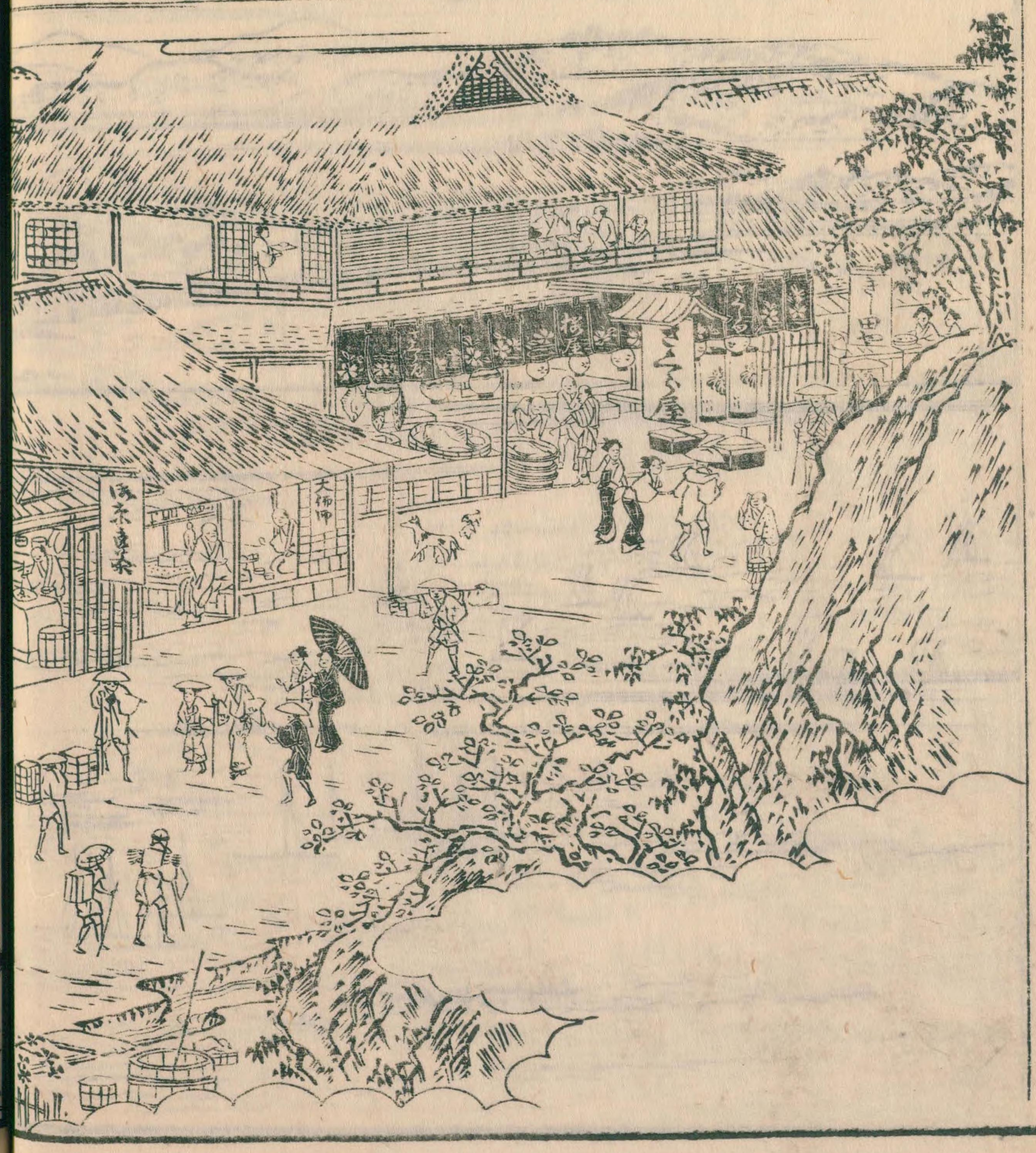
ガラス使用

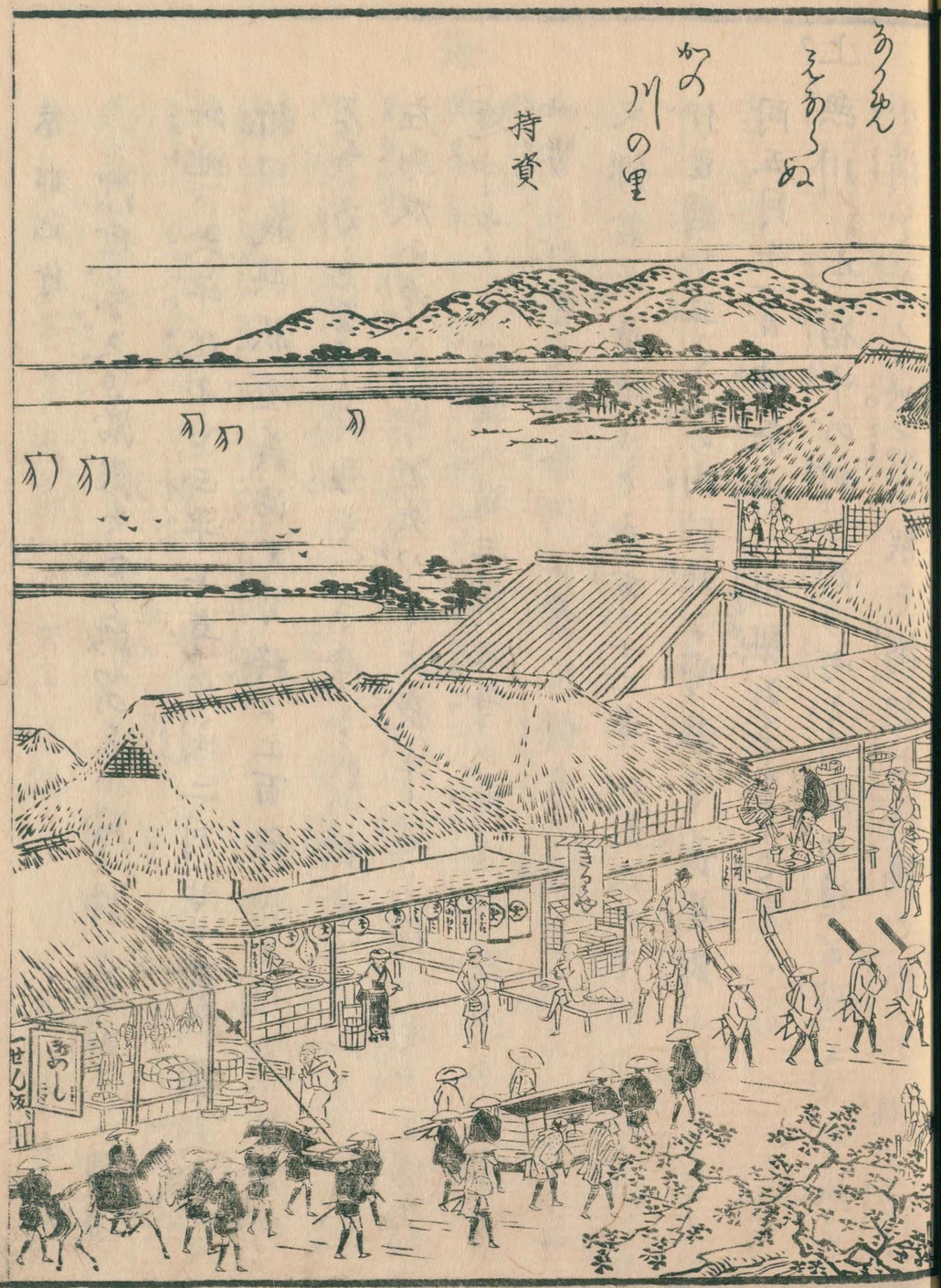
神奈川墓

此地はいつもも海岸に臨みて海亭をまうけ往来の人の足を止む此海辺を神の浦と名つく

平安記行

あま小舟
釣竿ふ
よそる
ふね
こぎ





かの川の里

持資

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

澤庵和尚洛陽より江戸に下向の事

此地は大平記にも正平七年の閏二月廿日の武蔵野合戦の新田義興脇屋義治兄弟終よき方をなく討死をせしき命を失ふべしと夜半過る程より閉戸を過ぬ途中にて石堂入道三浦助等の勢と打連て神奈河に著て鎌倉の様を問ふに由比小溝を号く此あたり架を橋と称す　橋の長さ二間

又鎌倉大草紙にも永享十二年四月六日上杉修理亮持朝伊豆國を立て山の内の庄へ帰参し長尾郷に滞留せしめ同五月十一日神奈川へ出勢あり

上無川　本宿中の町と西の町との間の道を横きりて流を

と云則神奈川の地名の興る所以なり後世笑志の二字を略しくかな川とも云るなり品川も亦下無川なり

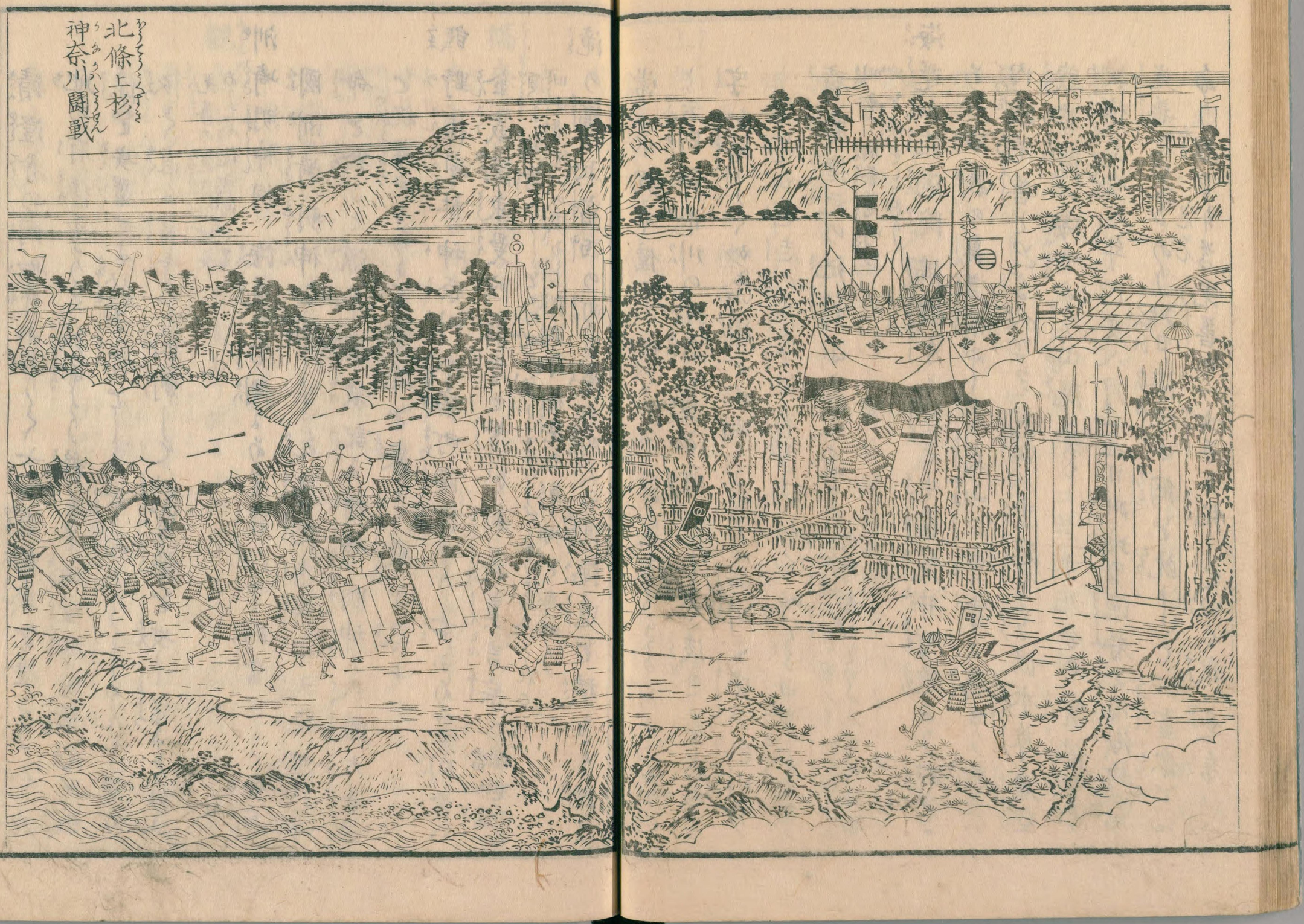
常は水涸て僅の小流なるも水源定なくして洪水の上無川

齊藤徳元の紀行にふれる南条高崎の川を領とあり

海運山能満院満願寺と号せり本宿荒井町道より右側にあり古義の真言宗にして島山三會寺と属せり開基は内海光善とのる人なるも開山は重運と号し李尊虚空蔵菩薩は海中より出現あらせし三寸九分の霊像なり相傳正安元年己亥八月十三日此地の漁者は内海新四郎光善とのるあり此日海中より此霊像を拾ひ上しに此霊像を拾ひ上しに白く我は是房州

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

北條上杉
神奈川闘戦



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

清澄寺の閼伽井あり〳〵七百有餘歳を歴〳〵今此地の有縁〳〵彼所〳〵移もて汝堂宇を営なて我像を安置せよ必子孫を〳〵幸福あら〳〵めんとなり依〳〵直ち當寺を開創して此霊像を安〳〵まるといふ

光善の遠孫此地よりて今猶連綿〳〵と

洲崎明神祠　海道の右側にあり

國洲崎明神と同し〳〵房総志料ふ天比理乃咩命を祭ると源平盛衰記よ洲崎明神ハ八幡大菩薩を祝まるとあるハ両説を挙〳〵疑を存せり

熊野権現社　神奈川本宿町海道より右にあり別當ハ新義真言宗〳〵當社権現山の頂より遷し〳〵をこの地へ移し〳〵まつれと旧地権現山の頂ふと称熊野権現の草祠を再せり

金蔵院東曼陀羅寺と号〳〵別當ハ普門寺〳〵安房の間海道を横きり流を滝の川と号〳〵架を此橋下の流〳〵滝の川より水源を発まるとなり

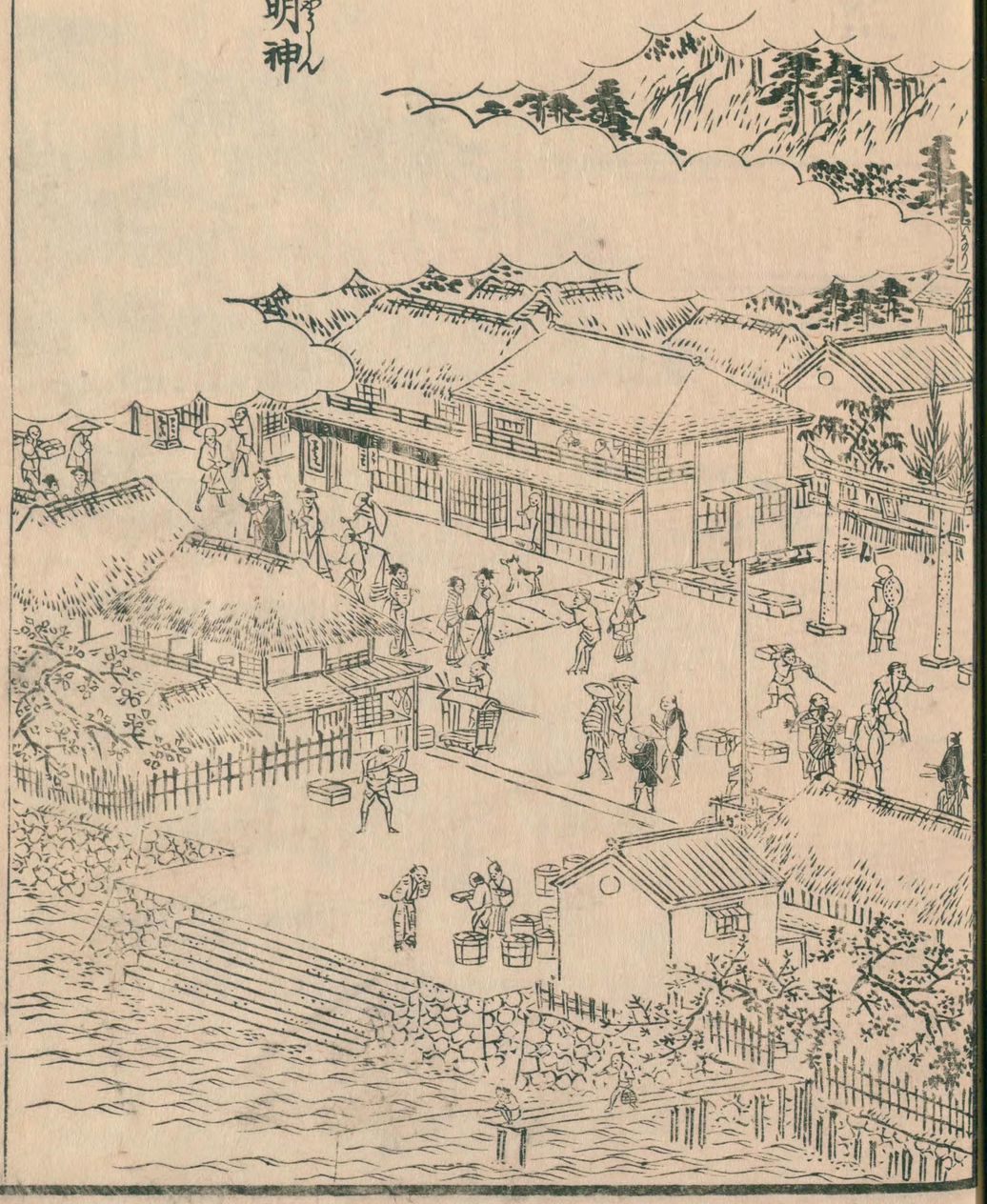
七八町西の方堰村と云より

橋本宗與寺　橋より向ふの川添ふ西の方道より左ふあり曹洞の禅宗ゆ〳〵て一尺そ〳〵り座像ありて本尊ハ釋迦や牟尼佛朝の作ゆ〳〵て寺社領ハ寛永年間大将軍家御上洛の時此地本宿ふ於ふ旅館を儲さゝられし一項許茶の水ふ掬せられしと云

観音山　山頂ふ観音堂あり故よ山の号とせるとゝ宗與寺の令ある〳〵石階聳立して寺社領ハ徳門の正中に對を本尊正観音の像ハ毘首羯摩天の作ゆ〳〵五寸九分あり昔焼亡ふ〳〵その旧紀を失ひぬ今其来由をあ〳〵をといふ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

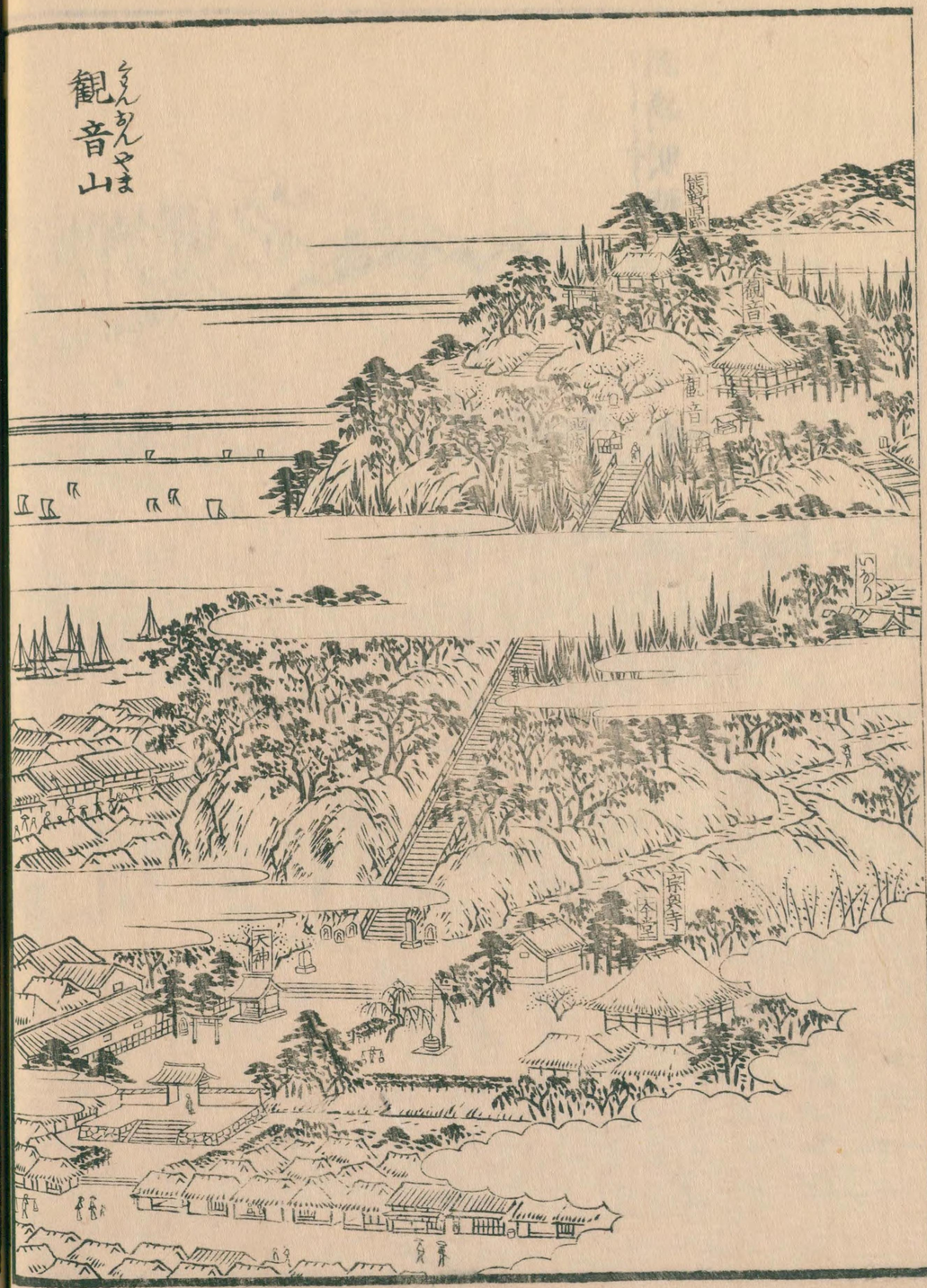
洲崎明神（すさきみょうじん）



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

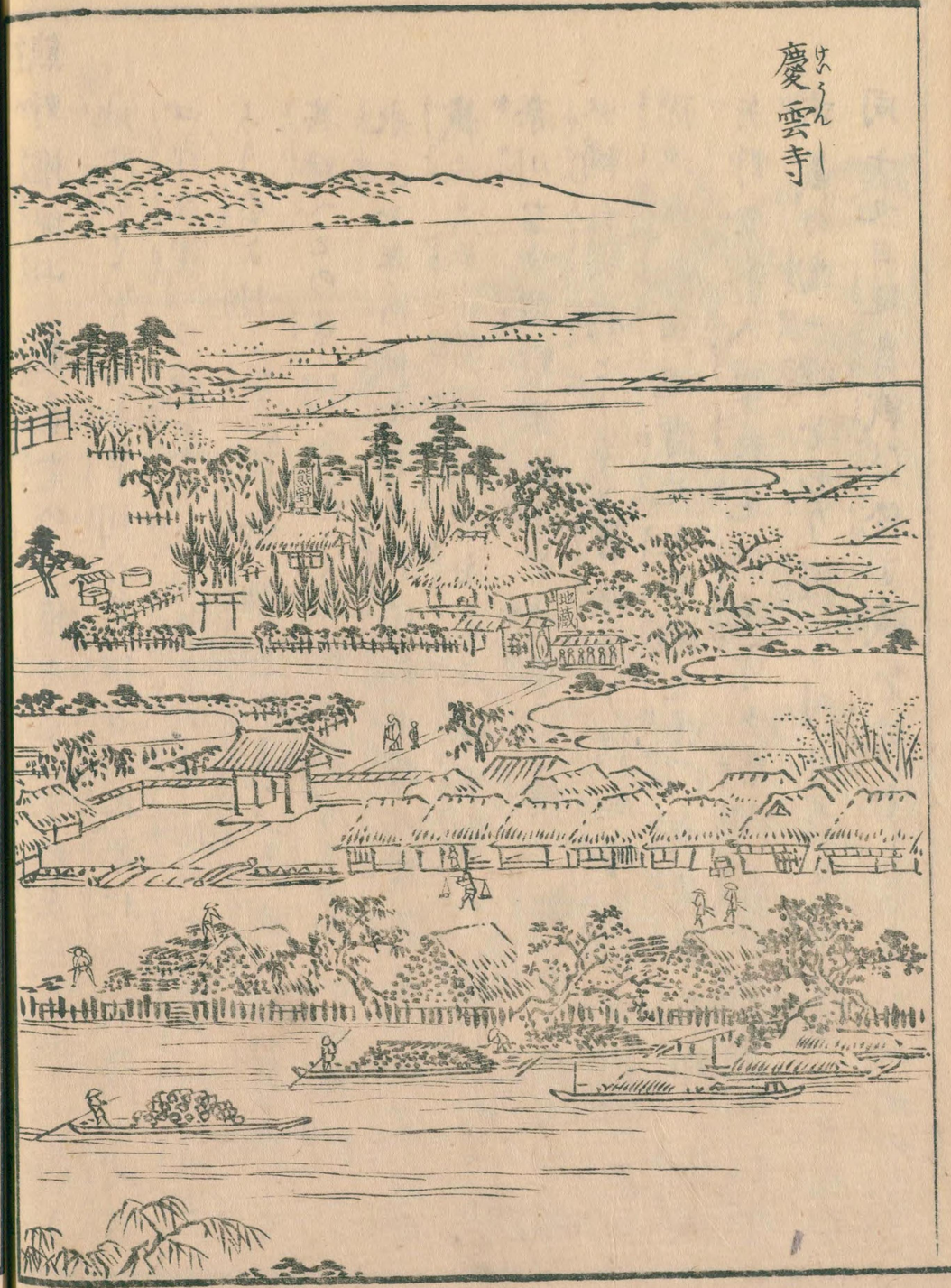
観音山



熊野権現山　観音堂の左の方少し高き地ゐ形さかりある草祠あり往古小田原北条家の功臣間宮四郎左衛門の城墨の址なりと云前條の本宿町海道より右へ付る和の熊野権現社とのみを或ハ此社を移して其跡へこの草祠を置く旧地を存せるもや小田原記に永正七年の秋七月上杉治部少輔入道建芳ら被官上田蔵人と云ふ者謀叛を企く北條早雲よ一味し武州神奈川なる熊野権現山を城廓よ構へ楯籠る依く治部少輔自大将とし〳〵く管領より沽加勢成田下総守渋江孫次郎藤田虎寿丸大石源左衛門長尾孫太郎ら名代矢野安藝入道長尾但馬守ら名代成田中務丞ら外武蔵の南一揆をかり催し同月十一日権現山ゐ走向ひ同十九日迫責戦ひ終よ城を落をとあるゐ此地の事

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

慶雲寺（けいうんじ）



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

なつて　小田原記よ此山ハ四方嶮岨ゆゑく岸高く時ち南ハ海北ハ深田なり
西ハ山續くゝを削くを堀切て山ゟ續くる平覺寺の地藏堂を
根城よ取
立と云く
吉祥山慶運寺茅草院と号滝の橋の北詰より西の方へ一町半
入く飯田道の右側にあり淨土宗花洛知恩院ゟ屬せ
本尊阿弥陀如来ハ立像三尺計あり作者不知　開山ハ音譽聖觀
上人ゆゑく文安四年丁卯開基といへ
江州甲賀源氏と初橋場の法源寺第二世となる聖觀上人ハ氏族未詳或ハ
元年増上寺第三世となる文明年間一日火車を示現しく空中に乘去る
辞世の頌及ひ和哥あり世ゟ傳燈系圖ゟ定蓮社音譽観化なりとのゝゝ
上人火車ゟ乘ゟ事ハ新著聞集ゟ載つゝ又當寺を開創あり宝德
中興開山ハ願故上人と号

東國紀行
往昔ゟ此宗牧の紀行ゟ慶雲を運ゟ改ろ
當寺ゟ宿りくりしを天文十四年三月三日なり
臥龍山雲松院乾徳寺と号を滝の橋際より一里十四五町西の
方小机村長津田街道の左側にあり曹洞汎の禪林やゝく
遠州の石雲院ゟ屬せ本尊虚空蔵菩薩ハ木佛にして
座像八寸計あり當寺小机の城代笠原越前守信為開創
開山ハ季雲永岳

の寺院やゝく　當寺靈牌ゟ乾徳院慶雲松道慶庵主と注くり
明應四年乙卯六月八日と
大和尚と号大永六年丙戌二月十五日化寂
月舟の額臥龍山の三大字を僧
笠原越前守小田原ゟ屬せ
舟ハ武勇技藝とゝゟゟ又同書ゟ永禄十年信玄小田原へ發向
雲松道慶ゟ無双の達人やゝく古早雲寺殿の忠臣ゝ長綱ゟ付氏綱
氏康へ忠功かゝくゝし其子ハ能登守なりとあるゝハ能登守
小机ゟハ長綱の代ゟ笠原能登守在城せとあるゝハ
しかれとも明應四年ゟ弘治三年ゟ統くゝ越前守没卒の年代逆
ゆゑく越前守ハ父子共ゟ二代の間小机の城代ゝ
逝去を法名雲昌慶公庵主と
鐘堂前左の方ゟあり銘ハ明心越禅師撰ゟるゟの其文左のごとし

夫法界聖凡三途六道皆由人一念之所成擧世而
臥龍山雲松院乾徳寺と号を滝の橋際より一里十四五町西の
方小机村長津田街道の左側にあり曹洞汎の禪林やゝく
遠州の石雲院ゟ屬せ本尊虚空蔵菩薩ハ木佛にして
座像八寸計あり當寺小机の城代笠原越前守信為開創
開山ハ季雲永岳

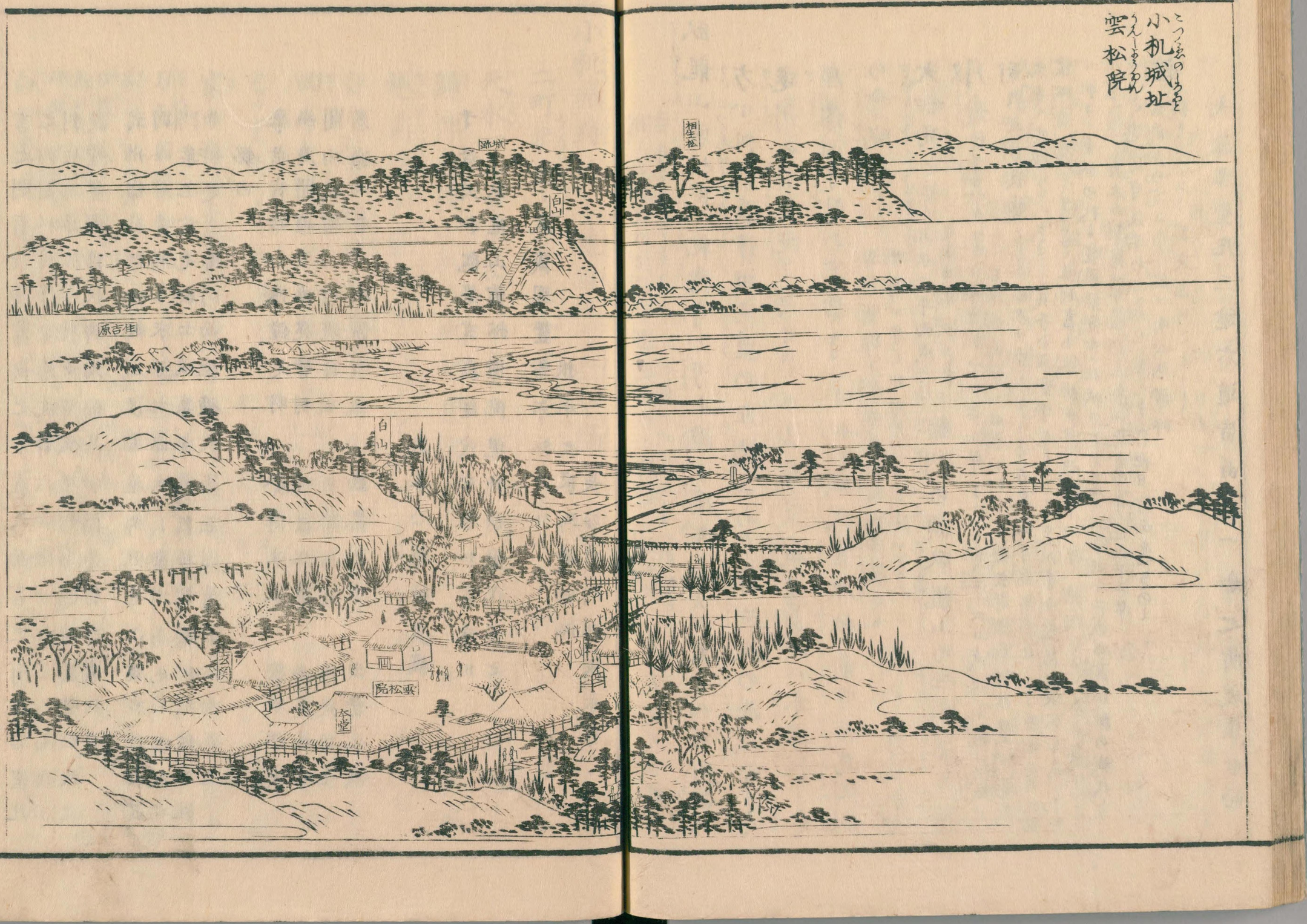
東國紀行　宗牧
往昔ゟ此宗牧の紀行ゟ慶雲を運ゟ改ろ
當寺ゟ宿りくりしを天文十四年三月三日なり
臥龍山雲松院乾徳寺と号を滝の橋際より一里十四五町西の
方小机村長津田街道の左側にあり曹洞汎の禪林やゝく
遠州の石雲院ゟ屬せ本尊虚空蔵菩薩ハ木佛にして
座像八寸計あり當寺小机の城代笠原越前守信為開創
開山ハ季雲永岳

の寺院やゝく　當寺靈牌ゟ乾徳院慶雲松道慶庵主と注くり
明應四年乙卯六月八日と
大和尚と号大永六年丙戌二月十五日化寂
月舟の額臥龍山の三大字を僧
笠原越前守小田原ゟ屬せ
舟ハ武勇技藝とゝゟゟ又同書ゟ永禄十年信玄小田原へ發向
雲松道慶ゟ無双の達人やゝく古早雲寺殿の忠臣ゝ長綱ゟ付氏綱
氏康へ忠功かゝくゝし其子ハ能登守なりとあるゝハ能登守
小机ゟハ長綱の代ゟ笠原能登守在城せとあるゝハ
しかれとも明應四年ゟ弘治三年ゟ統くゝ越前守没卒の年代逆
ゆゑく越前守ハ父子共ゟ二代の間小机の城代ゝ
逝去を法名雲昌慶公庵主と
鐘堂前左の方ゟあり銘ハ明心越禅師撰ゟるゟの其文左のごとし

夫法界聖凡三途六道皆由人一念之所成擧世而

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

こつくゑのしろあと 小机城址
うんしゅうじ 雲松院



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

言之則有陰陽晝夜之分在人而言之有迷語聖凡之別蓋以我佛垂慈救齋六合無分天上人間惟以利生爲事然而種々隨機導利有情同圓覺性故又設鐘聲佛誦枝濟淪稱其功德曷勝言哉茲有

武州都築郡小机庄根古屋郷臥竜山雲松院住持別峰着曹洞之末孫大源泓下遠州高尾石雲院之門葉也於是歳壬戌暮春積衆縁鋳銅鐘以就新建立樓門而施鐘於其衆因質余銘而記之

銘曰

擧世皆暗　惟鐘是明　聲傳法界　響徹幽冥
幽處聞鐘　幽處皆明　幽處無形　通幽處
聞而返聞　行頓速成　菩提自生　不聞而聞
利極四生　無盡含識　倶登化城

東皐心越杜多稿

于昔天和龍集玄黓閹茂季春如意珠日
臥竜山雲松禪院現住宗贐代置之

武蔵國豊島郡江戸根本之家御鋳物師長谷川刑部國永作

小机城跡　同し通道五丁計を隔てゝ道より右の方城坂と云を二町余登りくある土人八城山と号せり今官林となり小田原記に天永四年甲申四月十三日北条氏綱上杉朝興を攻落し歸陣の後小机の城を普請ありと記せるは依て考るに笠原越前守同能登守父子を城代とし〳〵此所に居住せしむとなり封境今南北一町余東西四町計の小阜にして回るに凡高六七丈中心の平地纔に百歩ばかりあり又笠原家の臣沼上出羽と云る人の子孫今此地に存せり其家に限帳と沼上と云る人小机の領を領せし時の文書あり又同書に笠原藤左衛門佐渡と云る人小机八郷と領し笠原平左衛門と云る人小机の内を領し笠原弥十郎と云る人小机の内井田の地を領せし時の文書あり又笠原家に北条家より小机の領を領せし時の朱印状あり其文に曰

按るに北条家の刀剣の類を収むると云某くを云ある人の子孫今此地に存せり其家に限帳と沼上と云る人小机の領を領せし時の文書あり又同書に笠原藤左衛門佐渡と云る人小机八郷と領し笠原平左衛門と云る人小机の内を領し笠原弥十郎と云る人小机の内井田の地を領せし時の朱印状あり其文に曰

高田玄番助う小机當生の内を領し笠原平左衛門と云る人小机の内を領し笠原弥十郎と云る人小机の内井田の地を領せし時の朱印状あり其文に曰

按るに北条家の刀剣の類を収むると云某くを云ある人の子孫今此地に存せり其家に限帳と沼上と云る人小机の領を領せし時の文書あり又同書に笠原藤左衛門佐渡と云る人小机八郷と領し笠原平左衛門と云る人小机の内を領し笠原弥十郎と云る人小机の内井田の地を領せし時の朱印状あり其文に曰

高田玄番助う小机當生の内を領し笠原平左衛門と云る人小机の内を領し笠原弥十郎と云る人小机の内井田の地を領せし時の朱印状あり其文に曰

古ハ橘樹郡都築郡ともに小机の属郷百八郷ありしとなり又笠原越前守の氏族なりしと云傳へ

白山權現　城山の東北山嘴にあり古の鎮守なりしと云傳へ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

松亀山泉谷寺　本覚院と号し城山より五六町を隔て長津田通道の左ふあり〳〵大門三丁計り間左右よ櫻の列樹あり此地の小名を泉ヶ谷と云ふ寺の号とせり　浄土宗ゆゑ〳〵花洛智恩院よ属せり　本尊ハ一光三尊の阿弥陀如来木像ゆゑ〳〵二尺八寸計りなり作者しるし〳〵當寺ハ鈴木但馬守と云る人の開創ありし人未考　開山を名蓮社見誉大道善悦大和尚と号せり　弘治元年八月二日化寂を下總飯沼弘経寺の六世なり　中門の前ふ天正十八年小田原北条家より建る所の天正十八年北制札あり

淡島明神社　相模街道大熊村より左へ十三四町入〳〵折本村ふあり神主雲路氏奉祀を祭禮ハ二月三日縁日ハ毎月三日十三日やゝ〳〵祭神ハ少彦名命及び神功皇后二座なり　勧請の初ハ詳ふあ〳〵と云

櫻樹　神前東の方ゆあり昔土人此山よ入櫻の老樹を薪とせんと伐を日を経て後山より至りし件の老樹の傍ふ大なる蛇あり〳〵其樹を惜むふ似〳〵里人ふらく〳〵社辺まあるし樹ふれハ當社の神の愛樹ゆゑ狩ふなく宝永正徳の比其根株ふ付〳〵なく宝永の若木社の上よあり〳〵社の東ふ栽〳〵其根をおちこ〳〵なりし

淡島神祠之碑

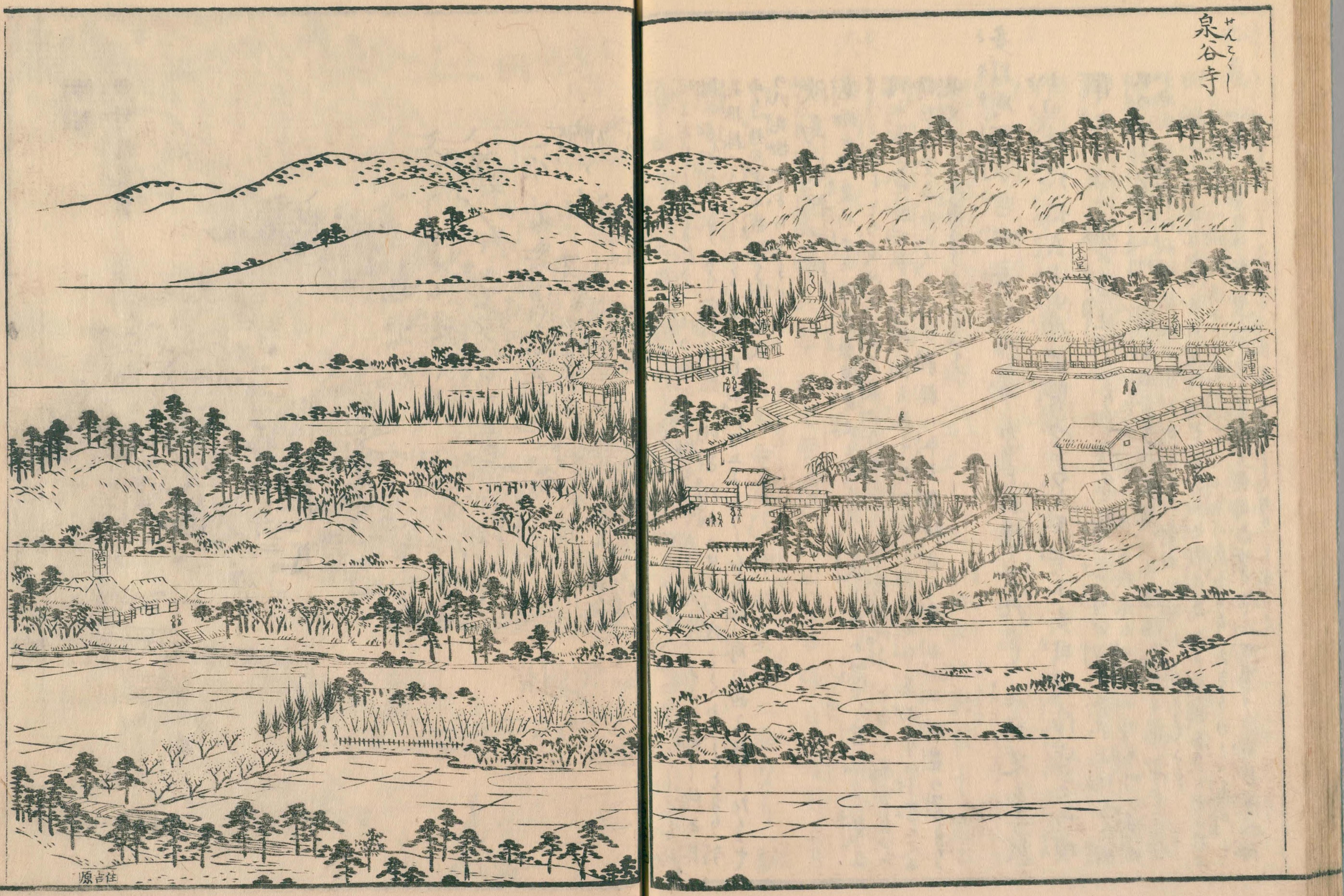
寛保壬戌夏折本の邑長藤原英里と云人邑民と共ふ謀〳〵當社を新よんと発起ハ英至此地数百歩を此神祠よ属を英至退く文を麻布善福寺の了誉上人ふ請ひ書を烏石山人よ求む篆額ハ本多康植竜の画ハ古山平國豊の筆其文ハ〳〵ふ省きし〳〵

多目周防守宅地　青木町の中ありとおぼしき小田原記信玄小田原を襲ふある条下ふ多目周防守その頃青木と云る人居住しゝと云ふ其地定ふあとしるし〳〵

牧の城よありし上州の國峯岩倉城よ米新左衛門と云る人小田原北条家の臣領後帳よ多目周防守と吉良左兵衛佐義門の家臣ありとをされと後帳ふよりし〳〵考ふハ新左衛門を後周防守とし小田原落去の時青木を領し後ふ北条家の臣ありとをされと義門を七条家の臣ありし〳〵ハ七条氏裏の妹聟ありしふ似たりし〳〵

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

泉谷寺



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

師岡熊野權現宮

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

折本村
淡島明神社

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

青木山西向寺　同所青木町の横小路の右側にあり　虚無僧寺に
して普化宗門金洗沢と称せり　札番所と号く物あり
本覚寺　切通　同所本覚寺の北の方の間を切開きて道路とせり
長津田通道及三澤永正七年の秋上杉治部少輔入道建芳ら
村等への路なり
被官上田蔵人建芳より背き此地より打ち出熊野権現山を
城廓と取立西より續きたる山くをハ其間をハ堀切本覚寺
の地蔵堂を根城とせしよし小田原記にみえたり　熊野権現
山の条下と
青木山本覚禅寺　同所の南七軒町にあり　曹洞の禅刹にて
小机の雲松院より属寺する地蔵菩薩ハ一尺四五寸の立像
なり　相伝ふ當寺ハ嘉禄二年の開創ゆゑ其後天文紀元
の年曹洞大源の末流季雲四傳の法孫陽廣禅師此に
住初めて法幢を建て禅風を起せり　元禄の初慶堂門庶
幾の祝融氏の為に廃せし佛殿の
額ハ本覚禅寺と書せしを圓明寺の開祖道山和尚の
筆なり
圓明山陽光院本覚寺の南より隣る遠州可睡齋退院の地なり
しく曹洞の禅院なり　開山
石牛天梁和尚と号く　後の山を福聚峰と号く門の額ハ福聚望と書
永平圓明禅師の筆なり
道灌山　同所西の方丸山中の字なり　昔大田道灌入道此地ハ
城を構へしゆゑの号ありと云
飯綱権現社　神奈川臺町海道の右の山上にあり　本覚寺より
一町斗南にあり　別當ハ真言宗同所の萬年山普門寺奉祀を
祭礼ハ五月十七日なり　飯綱権現本地佛ハ不動明王行基
大士の作にて座像一尺七八寸
右大将頼朝卿此社を深く崇敬なしたまひ治承四年

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

浅間社

八月伊豆國石橋山敗軍の後安房國へ渡海の時本朝の霊尓よりて風浪の難を逃れ給ひ其後竟尓天下一統希有ハ文治年間此地よ宮社造営ありて神領等を寄らるゝ事ハ此地よりて尤多し信厚かりしと云

袖の浦　此地の光景長汀曲浦さゝ波も鳥丸大納言光廣卿開東下向の頃帰路尓再此地よきりの外ひく和歌を詠せらるる

其時みつく袖の形よ似しとて名を江戸屋何某う家に秘え置り

こゝひき袖の浦よ泊まりつゝ

袖の浦ハ此地よりて

袖尓ふる神の御代よかへりこふ枝尓黄葉集よ初五文字をあのまゝのこわりつゝ集へをおりつゝ倭写のおりかりつゝ

富士浅間祠　同所の南芝生村海道の右の方山の中服にあり

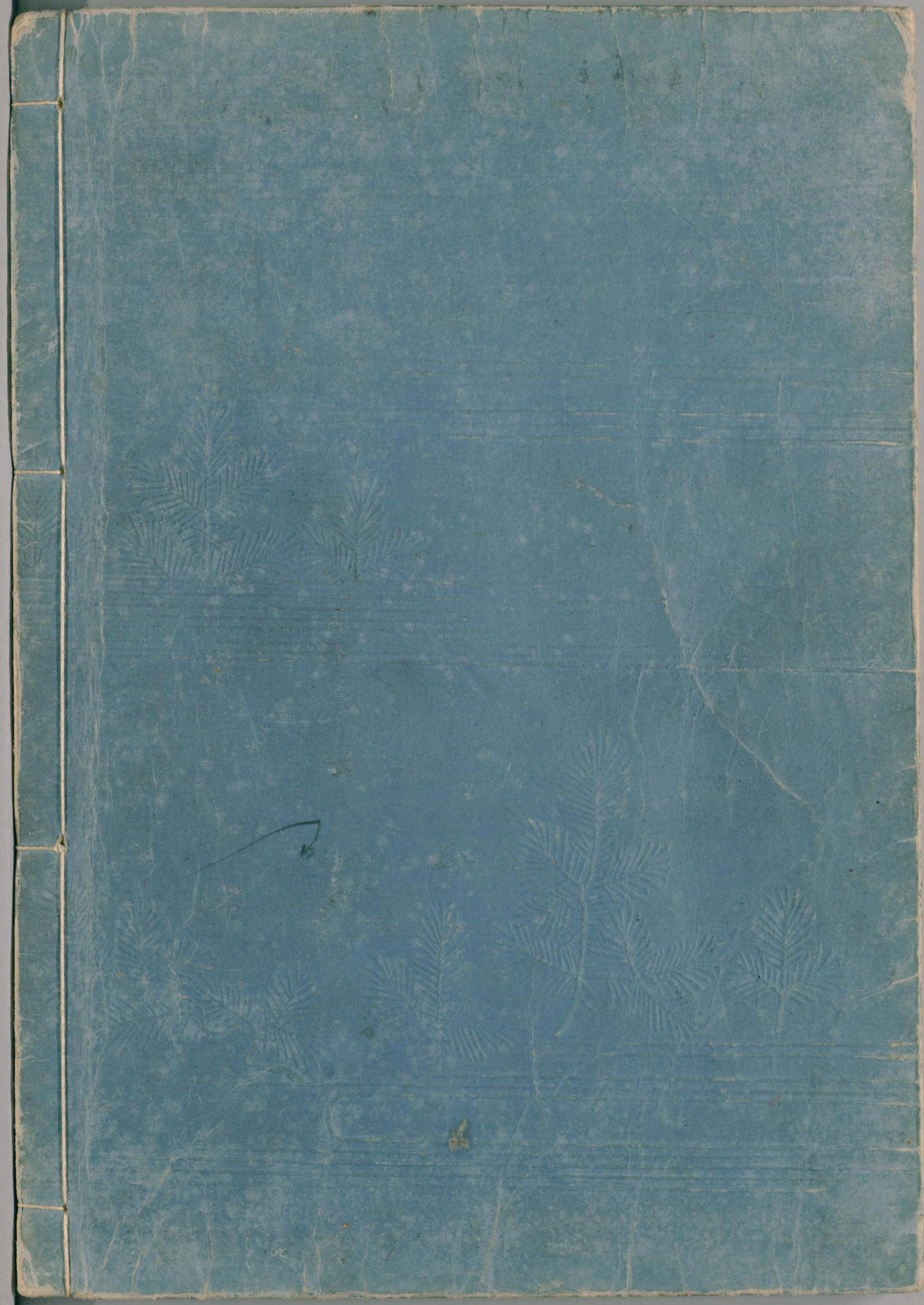
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

839
20
57

保土ヶ谷天徳寺の持なり此地に一の
暗窟あり上俗是を富士の人穴と号く相伝昔頼朝卿
富士の裾野の御猟あるとし頃仁田四郎忠常よ命せて
富士の人穴の奥を究やしむ忠常命を此穴中に入りて探
知そうとの事誕譚より云伝ふる古くより云伝ふる
ところなるべし
洲乾辨財天祠 芝新田横濱村よあり故ふ土人横濱辨天
とも稱せり別當ハ真言宗やしく同所増徳院奉祀を祭
礼ハ十一月十六日なり安置せる所の弁財天の像ハ弘法大師の
作やしく江の嶋と同木なり此地ハ洲崎やしく左右共よ海よ臨み
海岸の松風を波濤よ響をうそ尤佳景の地なり
海中嵯嶋なと称する奇巌あり遥望そ
秀美なり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用